

Ⅱ 高校生の理系分野への進学・就職に 関する意識調査

Ⅱ 高校生の理系分野への進学・就職に関する意識調査

1 調査対象

調査対象は、県立高校 15 校の理系クラスに属する 3 年生（男子・女子）であり、学科ごとの学校数及び有効回答者数等は下表のとおりである。

【調査対象高校】

区 分	学校数	有効回答者数 (構成割合%)	備 考
普 通 科	11	978 (80.8)	女子高校、共学高校
総 合 学 科 専 門 学 科	4	233 (19.2)	総合学科、農業系、工業系等
合 計	15	1,211 (100.0)	

【学校所在地域別の回答数】

区 分	学校数	有効回答者数 (構成割合%)
県北地域	4	279 (23.0)
県央地域	7	657 (54.3)
県南地域	4	275 (22.7)

2 調査方法

栃木県県民生活部からアンケート調査票（紙媒体）を各高校へ送付し、クラス単位で配布、回収を依頼した。記入後は栃木県県民生活部へ返送を依頼した。

調査期間は、令和 3（2021）年 6 月 28 日～7 月 9 日である。

3 報告書を見る際の注意事項

- 回答にあたって性別欄選択は任意としたため、無回答がある。よって、図表中の男子と女子の合計人数は「合計」と一致しない。
- 本報告書では「文理別」という表現を使用している。「理系」の区分については、設問によって、設問 3 で「どちらかと言えば理系」または「理系」と回答した生徒を「理系」とする場合と、設問 7（1）の進路希望により「理系」とする場合がある。図表の注釈を参考とされたい。
- 本報告書では、理系の進路に対する意識を把握するにあたり、「文系」の進路希望者と回答を比較対照した。アンケートでは「文系でも理系でもない進路」も選択肢として示し回答を得ている。「文系でも理系でもない進路」を選択した生徒の回答については本冊子に「資料 2」として掲載した集計表を参照されたい。

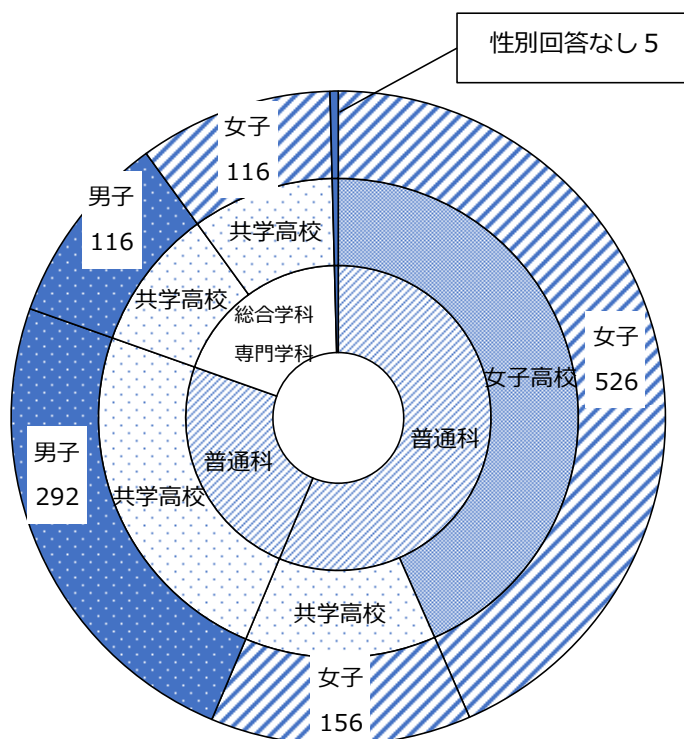
4 調査結果

設問1 あなたの性別と学科を教えてください。

図表1－(1) 回答状況

区 分	回答者数 (上段：人 下段：%)	男子	女子	無回答
普通科	978 (100.0)	292 (29.9)	682 (69.7)	4 (0.4)
女子高校	528 (100.0)	0 0.0	526 (99.6)	2 (0.4)
共学高校	450 (100.0)	292 (64.9)	156 (34.7)	2 (0.4)
総合学科・専門学科	233 (100.0)	116 (49.8)	116 (49.8)	1 (0.4)
合 計	1,211 (100.0)	408 (33.7)	798 (65.9)	5 (0.4)

図表1－(2) 回答生徒の属性



設問2 これまでに、進路選択について、大人（家族や親戚、学校や塾の先生、知り合いなど、自分より目上の人）から、「男子だから」、「女子だから」というように、性別を理由にした進路選択の推奨やアドバイスを受けたことはありますか。（単一回答）

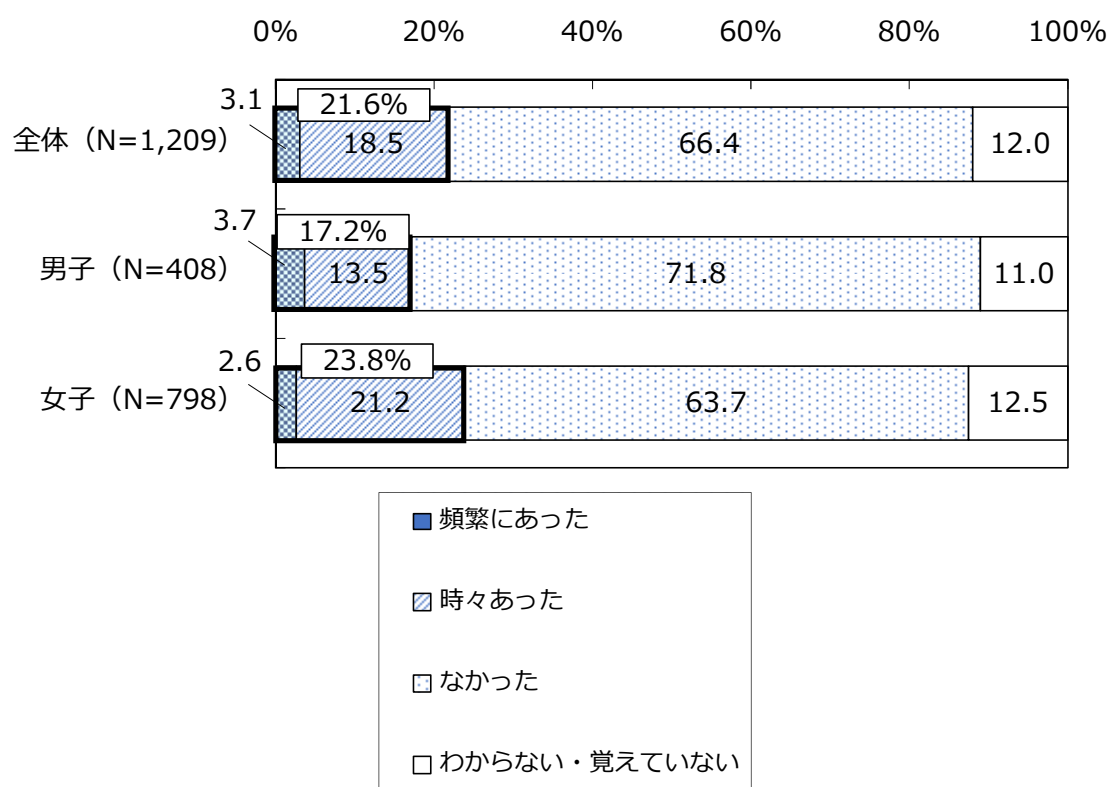
図表2は、進路選択に際し、大人から「男子だから」、「女子だから」というように、性別を理由にした進路選択の推奨やアドバイスを受けたことがあるかについて見たものである。

男女別に見ると、男子・女子ともに、「（性別を理由にした進路選択の推奨は）なかった」の割合が最も高くなっている（男子71.8%、女子63.7%）。

なお、「（性別を理由にした進路選択の推奨が）あった」※と回答した生徒の割合は女子の方が高くなっている（男子17.2%、女子23.8%）。

※「（性別を理由にした進路選択の推奨が）あった」：「頻繁にあった」と「時々あった」の合計

図表2 性別を理由にした進路選択の推奨・アドバイスの有無（男女別）



設問3 あなたは、理系と文系のどちらに近いですか。(単一回答)

図表3は、自身が理系と文系どちらに近いと認識しているのかを見たものである。

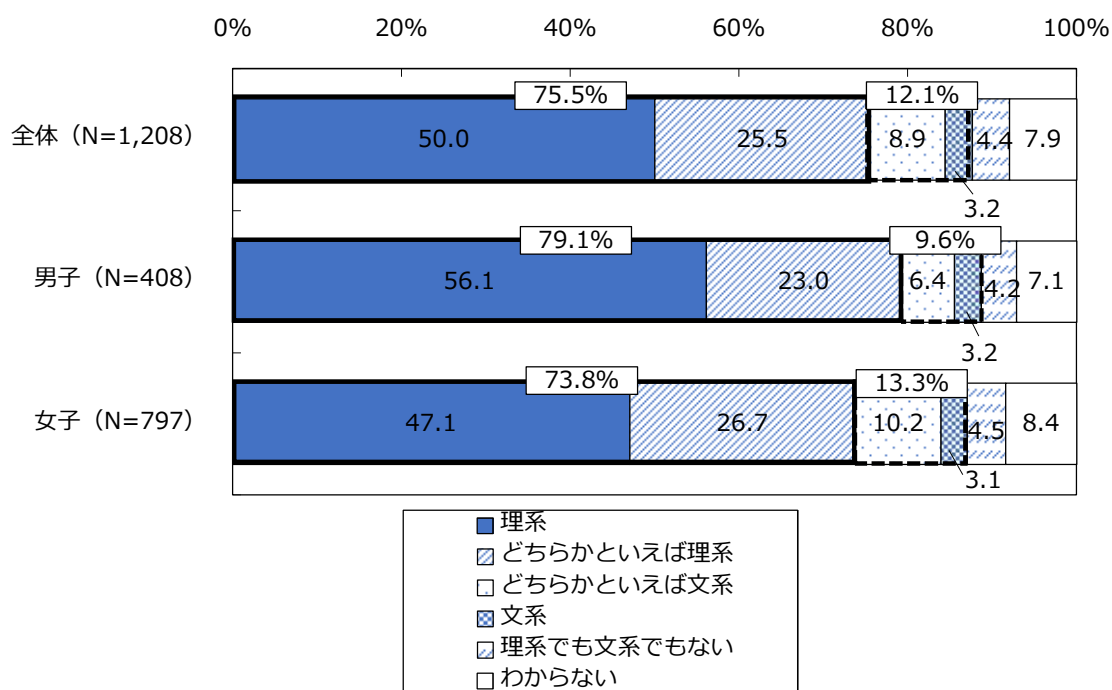
男女別に見ると、男子・女子ともに、“自分は理系”※¹と回答した生徒の割合は7割を超えている(男子79.1%、女子73.8%)。

一方、“自分は文系”※²と回答した生徒の割合は、男子・女子ともに1割前後となっている(男子9.6%、女子13.3%)。

※1 “自分は理系”：「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

※2 “自分は文系”：「文系」または「どちらかといえば文系」と回答した生徒

図表3 自分は理系・文系のどちらに近いか(男女別)



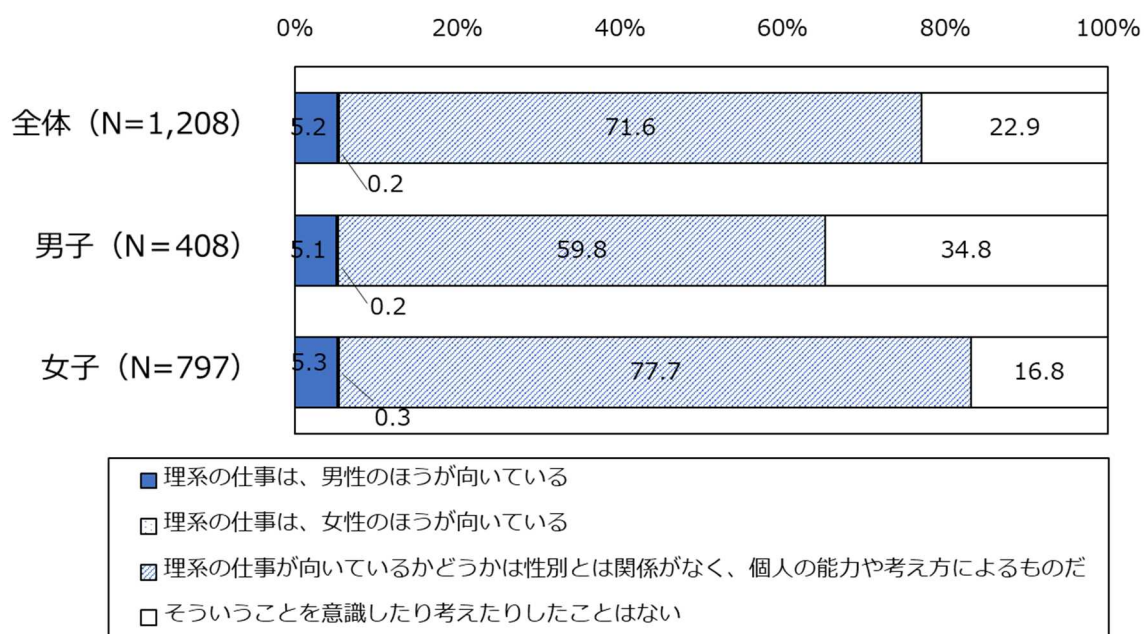
設問4(1) あなたは、理系の仕事についてどう思いますか。(単一回答)

図表4-(1)-1は、“理系の仕事は男性と女性のどちらに向いていると思うか(理系の仕事についてどのように思うか)”を聞いたものである。

全体では「理系の仕事に向いているかどうかは性別とは関係がなく、個人の能力や考え方によるものだ」の割合が最も高く、その割合は男子に比べ女子の方が高くなっている(男子59.8%、女子77.7%)。

次に回答割合が高くなっているのは「そういうことを意識したり考えたりしたことはない」で、割合は女子に比べ男子の方が高くなっている(男子34.8%、女子16.8%)。

図表4-(1)-1 理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか(男女別)



図表4-(1)-2は、図表4-(1)-1の回答を、“自分は理系”※¹と回答した生徒と、“自分は文系”※²と回答した生徒に分け、さらに男女別による回答状況を見たものである。

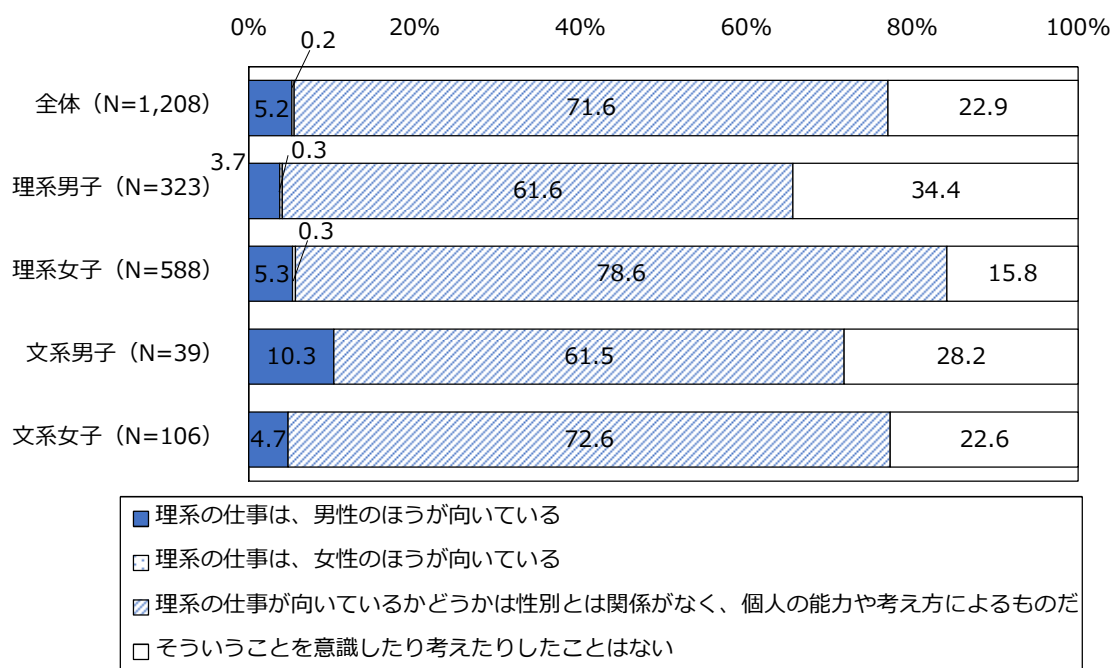
「理系の仕事が向いているかどうかは性別とは関係がなく、個人の能力や考え方によるものだ」について見ると、回答割合が最も高くなっているのは理系女子となっている（理系男子 61.6%、理系女子 78.6%、文系男子 61.5%、文系女子 72.6%）。

次に割合が高い「そういうことを意識したり考えたりしたことはない」で回答割合が最も高くなっているのは理系男子となっている（理系男子 34.4%、理系女子 15.8%、文系男子 28.2%、文系女子 22.6%）。

※1 “自分は理系”：設問3で「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

※2 “自分は文系”：設問3で「文系」または「どちらかといえば文系」と回答した生徒

図表4-(1)-2 理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか
(文理・男女別)

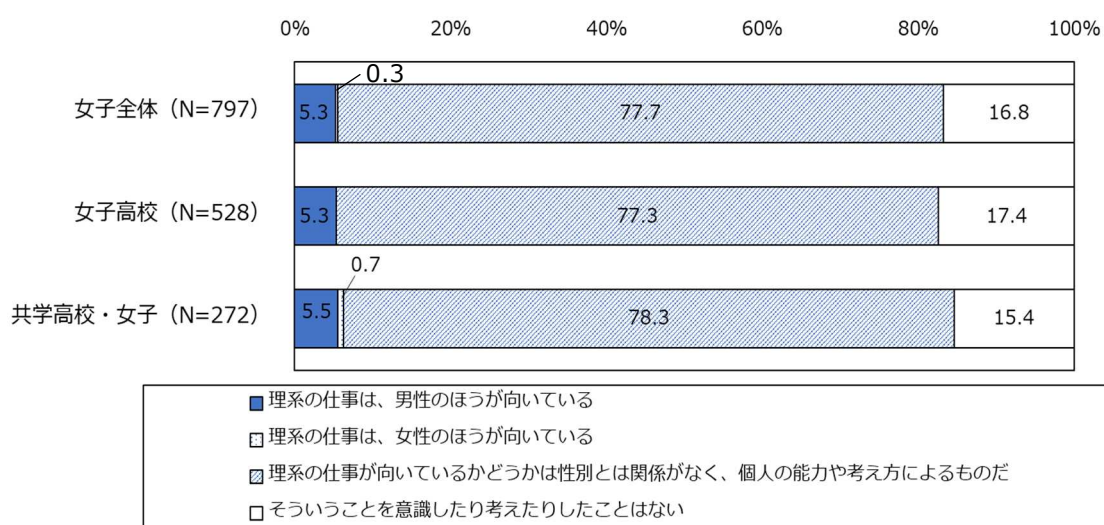


※ この図表については、文系男子の人数が少ないことに留意する必要がある。

図表4-(1)-3は、“理系の仕事は男性と女性のどちらに向いていると思うか(理系の仕事についてどのように思うか)”について、女子の回答を女子高校と共学高校別に見たものである。

「理系の仕事に向いているかどうかは性別とは関係がなく、個人の能力や考え方によるものだ」について見ると、ほぼ同じ割合となっている(女子高校 77.3%、共学高校 78.3%)。

図表4-(1)-3 理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか
(女子、女子高校・共学高校別)



設問4(2) “理系の仕事は男性と女性のどちらに向いていると思うか”〔設問4(1)〕を回答する上で影響を受けた人や物事は何ですか。(複数回答3つまで)

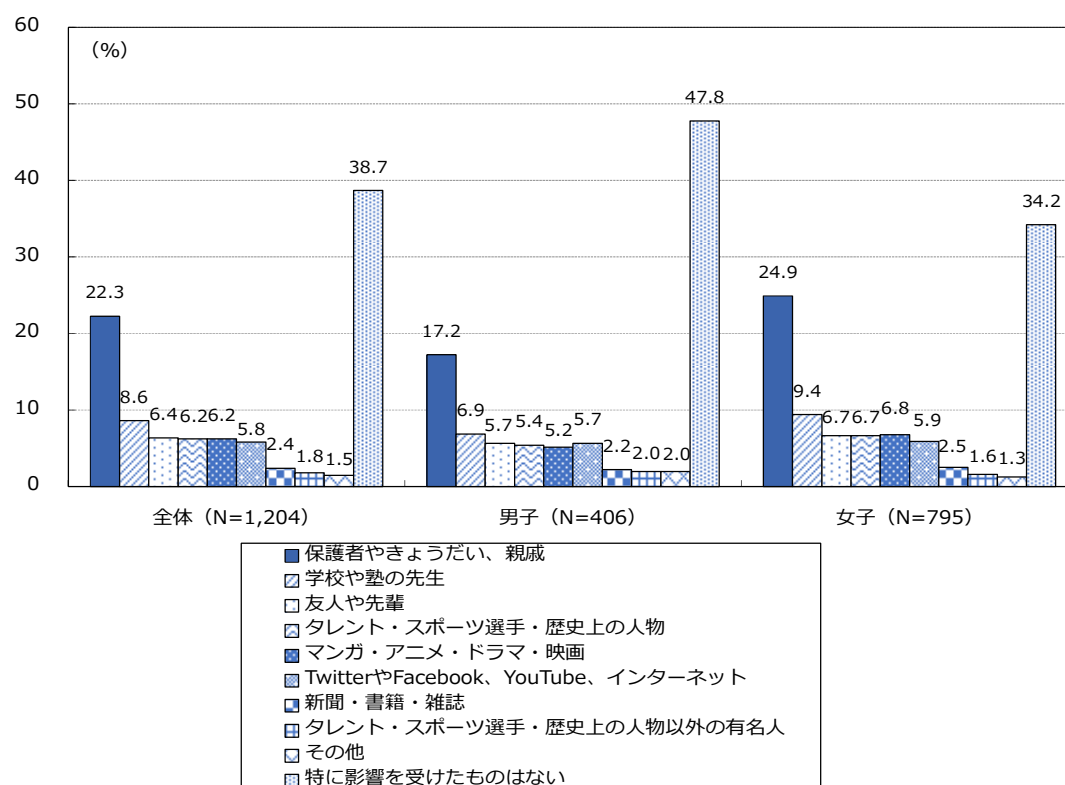
図表4-(2)-1は、“理系の仕事は男性と女性のどちらに向いていると思うか”に対する自身の意見や考え方〔設問4(1)の回答〕は、誰(または何)の影響によるものかを見たものである※。

男子・女子ともに「特に影響を受けたものはない」の割合が最も高くなっているが、影響を受けたものの中では、「保護者やきょうだい、親戚」の割合が一番高くなっている。

なお「保護者やきょうだい、親戚」と回答した生徒の割合は、女子の方が高くなっている(男子 17.2%、女子 24.9%)。

※ 回答用紙には、影響の大きい順に最大3つまでの回答を依頼した。図表4-(2)-1は回答欄のうち、最も影響を受けたとする1番目の記入欄に記載のあったものを集計した。

図表4-(2)-1 “理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか”に対する自身の意見や考え方は誰(または何)の影響によるものか(男女別)



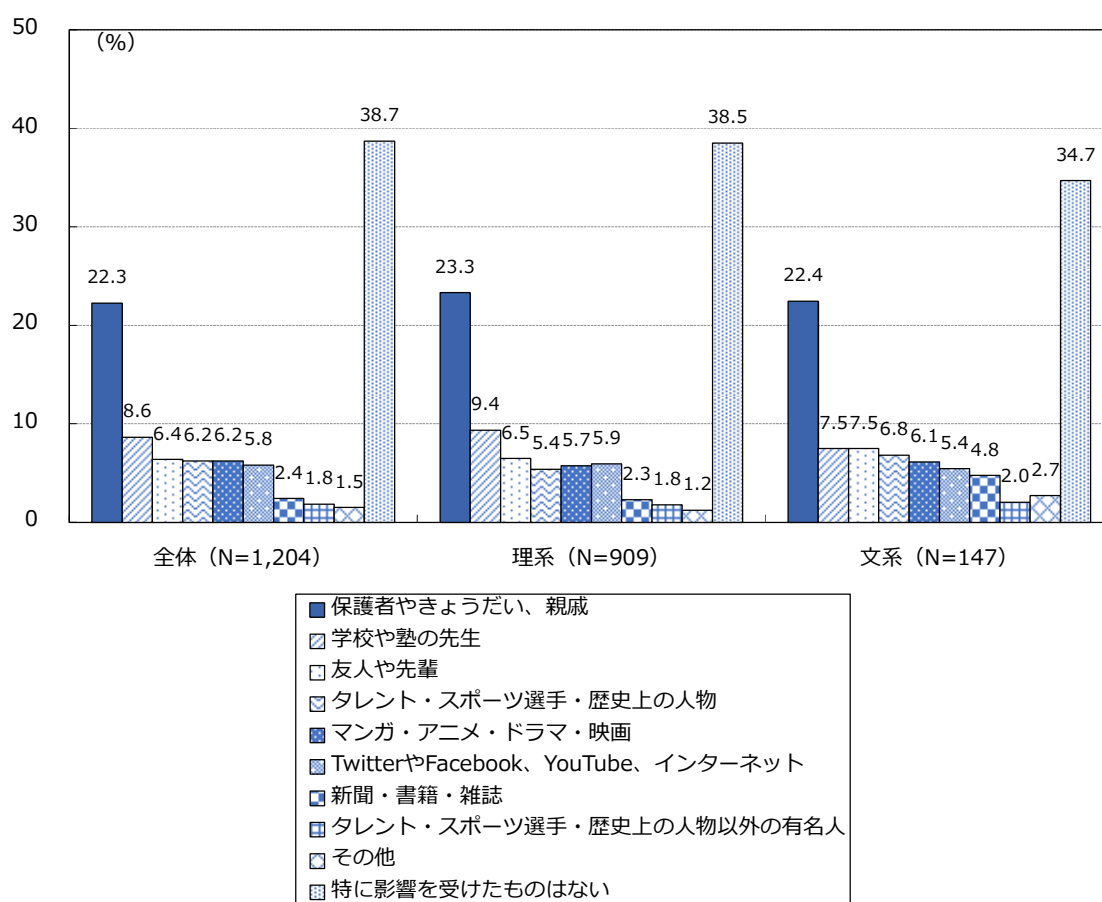
図表4-(2)-2は、図表4-(2)-1を文理別に見たものである。

“自分は理系”※¹と回答した生徒と、“自分は文系”※²と回答した生徒では、いずれも「特に影響を受けたものはない」の割合が最も高く、各項目について割合に大きな差はなかった。

※1 “自分は理系”：設問3で「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

※2 “自分は文系”：設問3で「文系」または「どちらかといえば文系」と回答した生徒

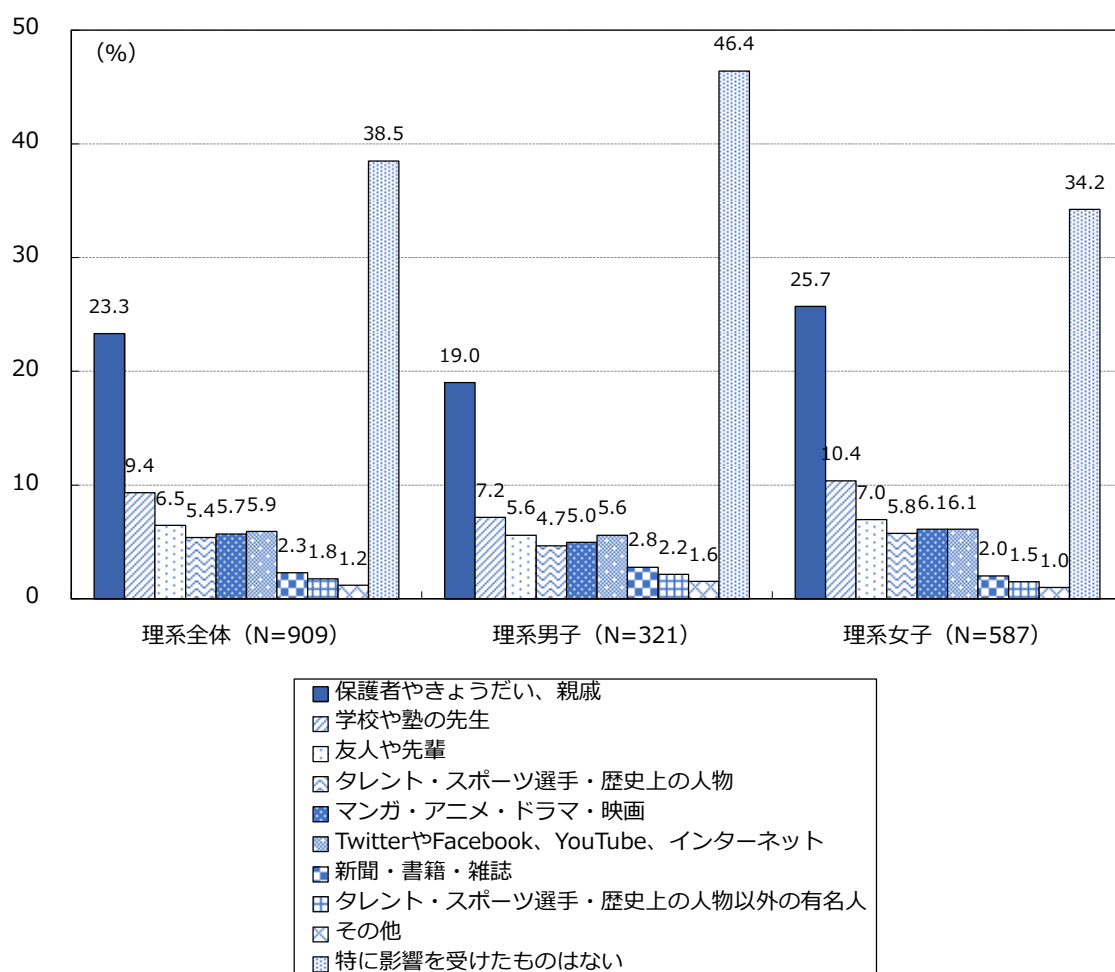
図表4-(2)-2 “理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか”に対する自身の意見や考え方は誰(または何)の影響によるものか(文理別)



図表4-(2)-2について、さらに“自分は理系”とする生徒の回答を男女別に見たのが図表4-(2)-3である。

男子・女子ともに「特に影響を受けたものはない」の割合が最も高くなっており、男子の方が割合が高くなっている（男子46.4%、女子34.2%）。影響のあったものの中では、「保護者やきょうだい、親戚」の割合が一番高く、その割合は女子の方が高くなっている（理系男子19.0%、理系女子25.7%）。

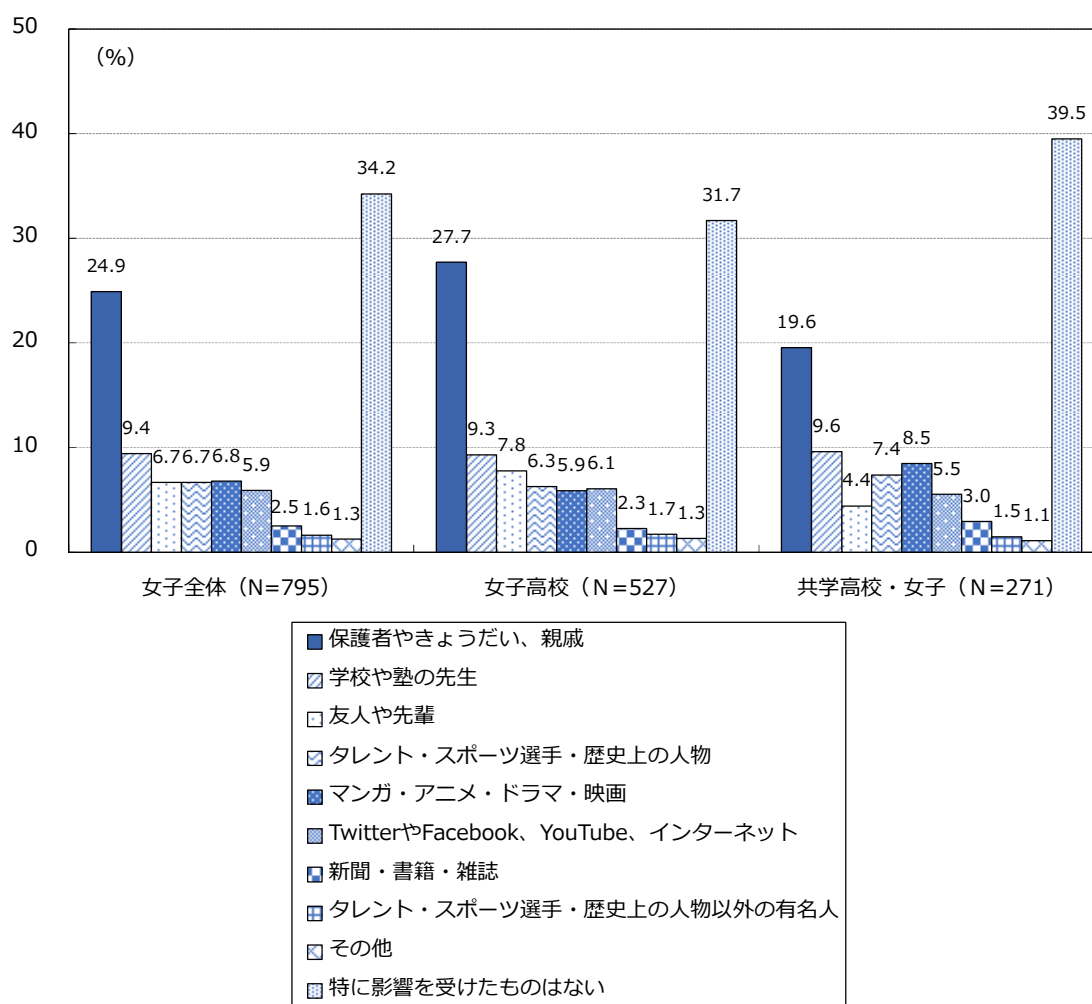
図表4-(2)-3 “理系の仕事は、男性と女性のどちらに向いているか”に対する自身の意見や考え方は誰(または何)の影響によるものか(理系・男女別)



図表4-(2)-4は、図表4-(2)-1の女子の回答を、女子高校と共学高校別に見たものである。

どちらも「特に影響を受けたものはない」の割合が最も高くなっているが、共学高校の方が割合が高くなっている（女子高校 31.7%、共学高校 39.5%）。影響を受けたものの中では、「保護者やきょうだい、親戚」の割合が一番高くなっており、その割合は女子高校の方が高くなっている（女子高校 27.7%、共学高校 19.6%）。

図表4-(2)-4 “理系の仕事は、男性と女性どちらが向いているか”に対する
自身の意見や考え方は誰(または何)の影響によるものか
(女子、女子高校・共学高校別)



設問5(1) 進学をする地域について、どのような希望がありますか。(単一回答)

図表5-(1)-1は、進学を希望する地域について見たものである。

県内での進学を希望する割合は、男子・女子とも2割前後となっている。また、自宅から通学できる範囲で県外へ進学を希望する割合※¹は女子の方が高くなっている(男子10.7%、女子15.2%)。

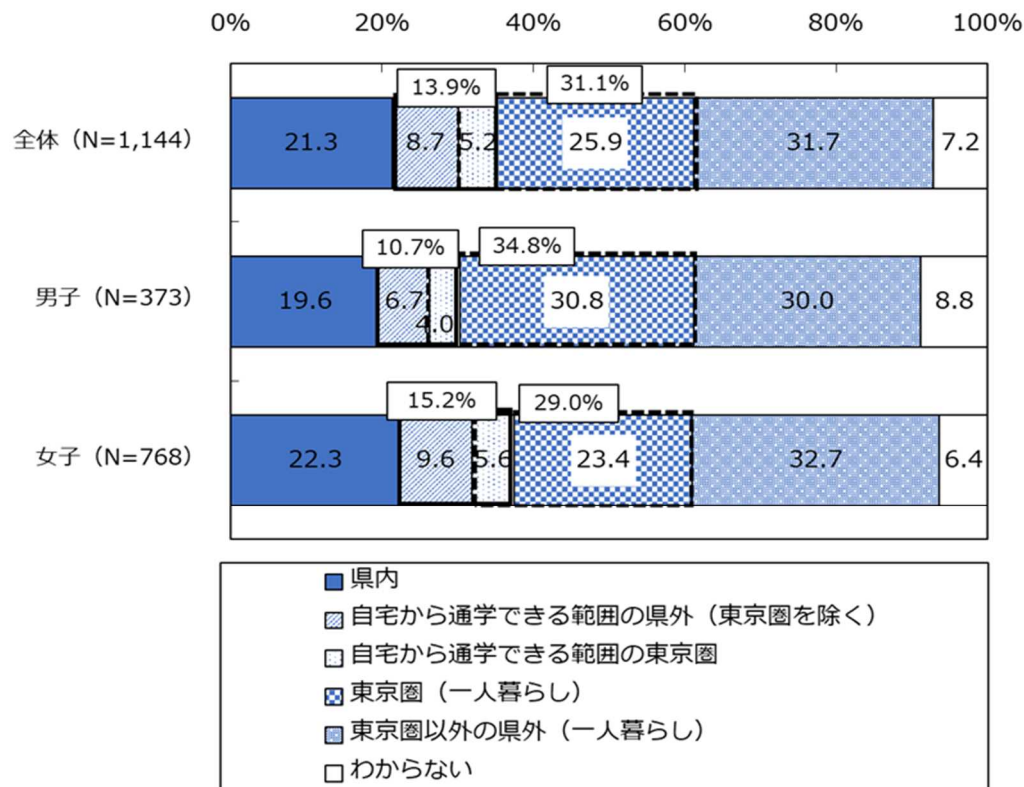
東京圏※²への進学※³は、男子の方が希望する割合が高く(男子34.8%、女子29.0%)、一人暮らしを希望する割合も男子の方が高くなっている(男子30.8%、女子23.4%)。

※1 自宅から通学できる範囲で県外へ進学を希望する割合：「自宅から通学できる範囲の県外(東京圏を除く)」、「自宅から通学できる範囲の東京圏」の合計(図中の実線)

※2 このアンケートにおいて「東京圏」とは、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県をいう。

※3 東京圏への進学：「自宅から通学できる範囲の東京圏」と「東京圏(一人暮らし)」の合計(図中の破線)

図表5-(1)-1 進学先の希望地域(男女別)



図表5-(1)-2は、図表5-(1)-1をさらに文理※・男女別に見たものである。

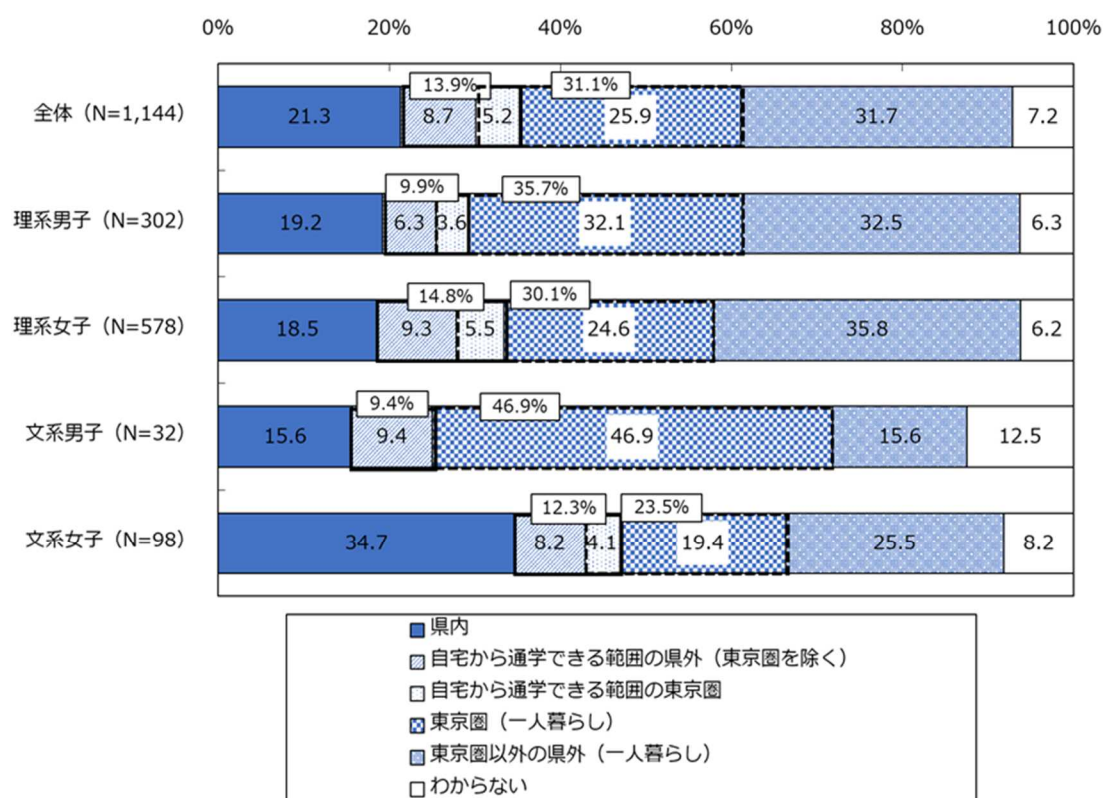
県内での進学を希望する割合は、文系女子が最も高くなっている（理系男子 19.2%、理系女子 18.5%、文系男子 15.6%、文系女子 34.7%）。東京圏への進学を希望する割合は、文系男子が最も高くなっている（理系男子 35.7%、理系女子 30.1%、文系男子 46.9%、文系女子 23.5%）。

なお、東京圏以外の県外（一人暮らし）については、文系よりも理系の方が割合が高くなっている（理系男子 32.5%、理系女子 35.8%、文系男子 15.6%、文系女子 25.5%）。

※ “文系”：設問3で「文系」または「どちらかといえば文系」と回答した生徒

“理系”：設問3で「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

図表5-(1)-2 進学先の希望地域(文理・男女別)

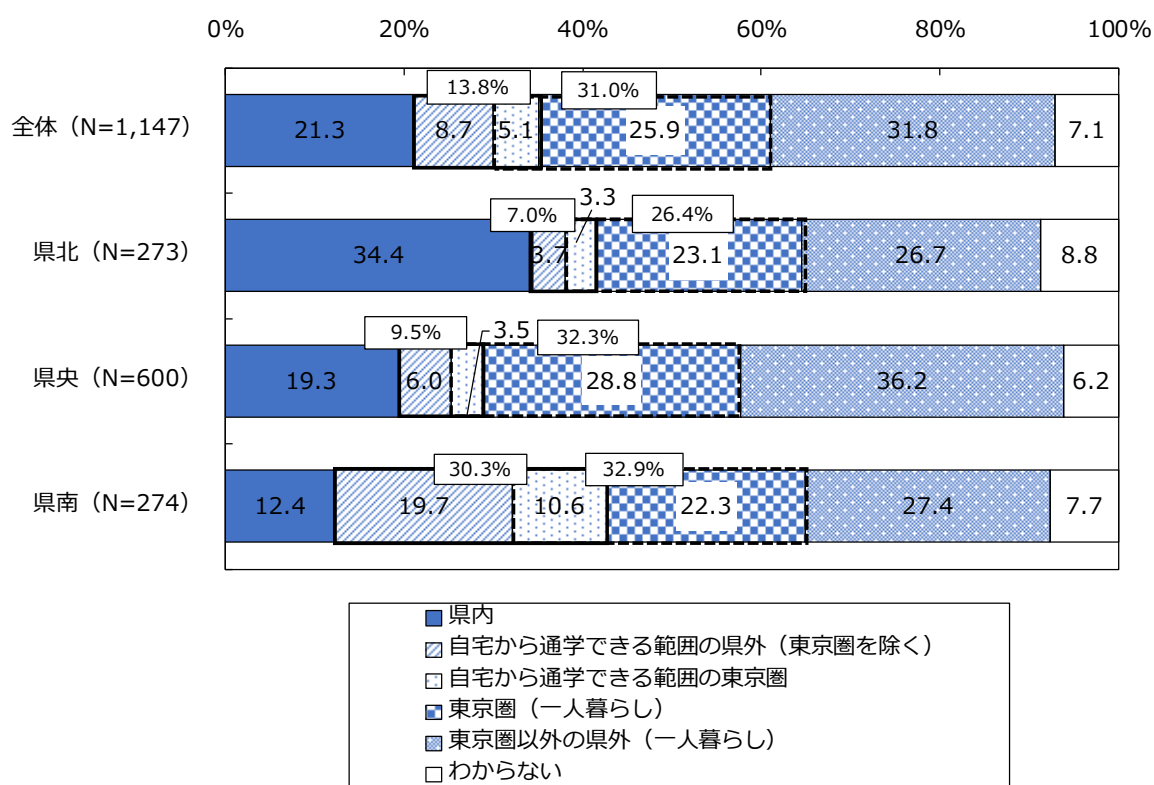


※ この図表については、文系男子の人数が少ないことに留意する必要がある。

図表5-(1)-3は、進学先の希望地域を学校所在地域別に見たものである。

県内での進学を希望する割合は、県北地域で割合が高く、県南地域で低くなっている（県北地域 34.4%、県央地域 19.3%、県南地域 12.4%）。また、自宅から通学できる範囲で県外へ進学を希望する割合は県南地域で高くなっている（県北地域 7.0%、県央地域 9.5%、県南地域 30.3%）。

図表5-(1)-3 進学先の希望地域(学校所在地域別)



設問5(2) 就職をする地域について、どのような希望がありますか。(単一回答)

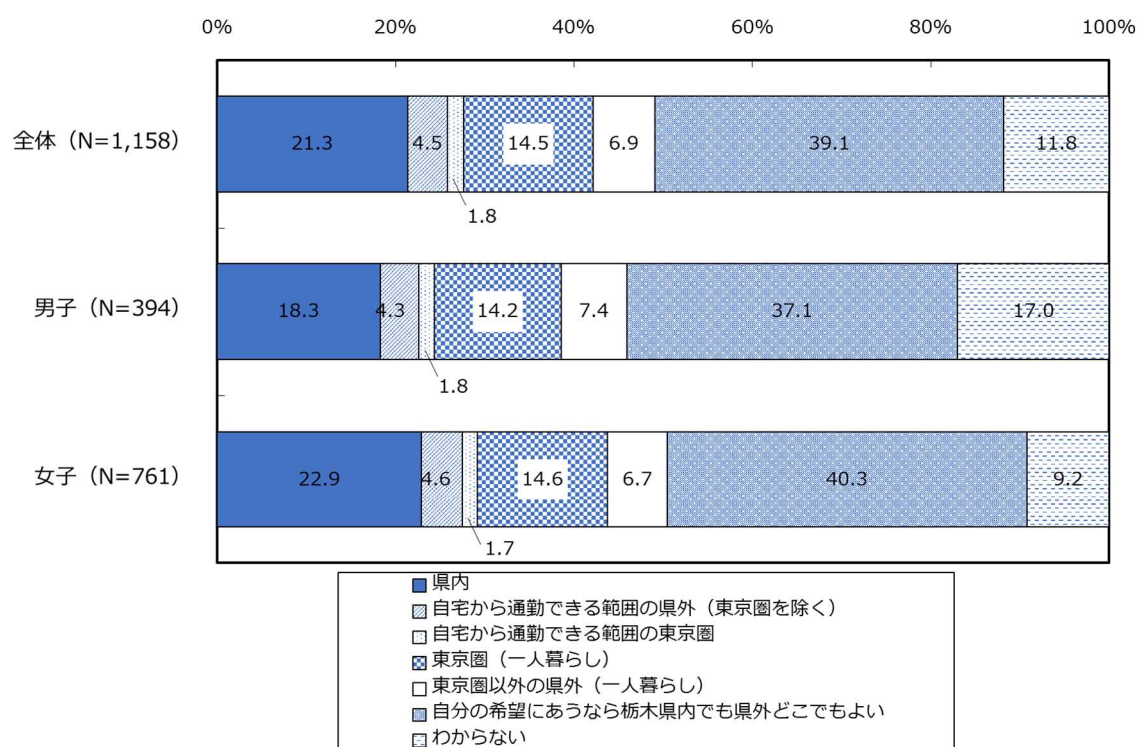
図表5-(2)-1は、高校や大学等を卒業後に就職を希望する地域について見たものである。

男子・女子ともに「自分の希望にあうなら栃木県内でも県外どこでもよい」の割合が最も高く、4割前後（男子37.1%、女子40.3%）となっている。

県内での就職を希望する割合は男子・女子とも2割前後（男子18.3%、女子22.9%）となっている。

なお、就職を希望する地域を「わからない」とする割合は男子の方が高くなっている（男子17.0%、女子9.2%）。

図表5-(2)-1 就職先の希望地域(男女別)



図表 5-(2)-1 をさらに文理※・男女別に見たのが図表 5-(2)-2 である。

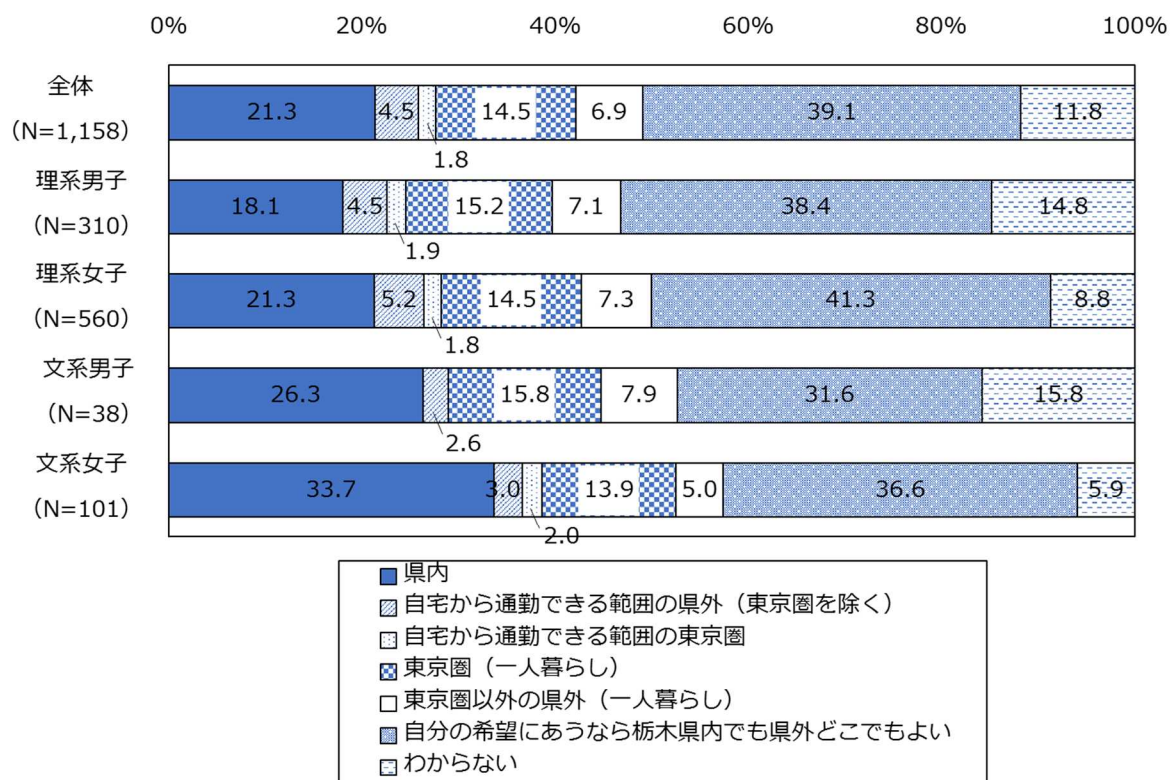
文理・性別にかかわらず、「自分の希望にあうなら栃木県内でも県外でもどこでもよい」の割合が最も高いが、理系女子の割合が最も高くなっている（理系男子 38.4%、理系女子 41.3%、文系男子 31.6%、文系女子 36.6%）。

県内での就職を希望する割合は、文系女子が最も高くなっている（理系男子 18.1%、理系女子 21.3%、文系男子 26.3%、文系女子 33.7%）。

※ “文系”：設問 3 で「文系」または「どちらかといえば文系」と回答した生徒

“理系”：設問 3 で「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

図表 5-(2)-2 就職先の希望地域(文理・男女別)



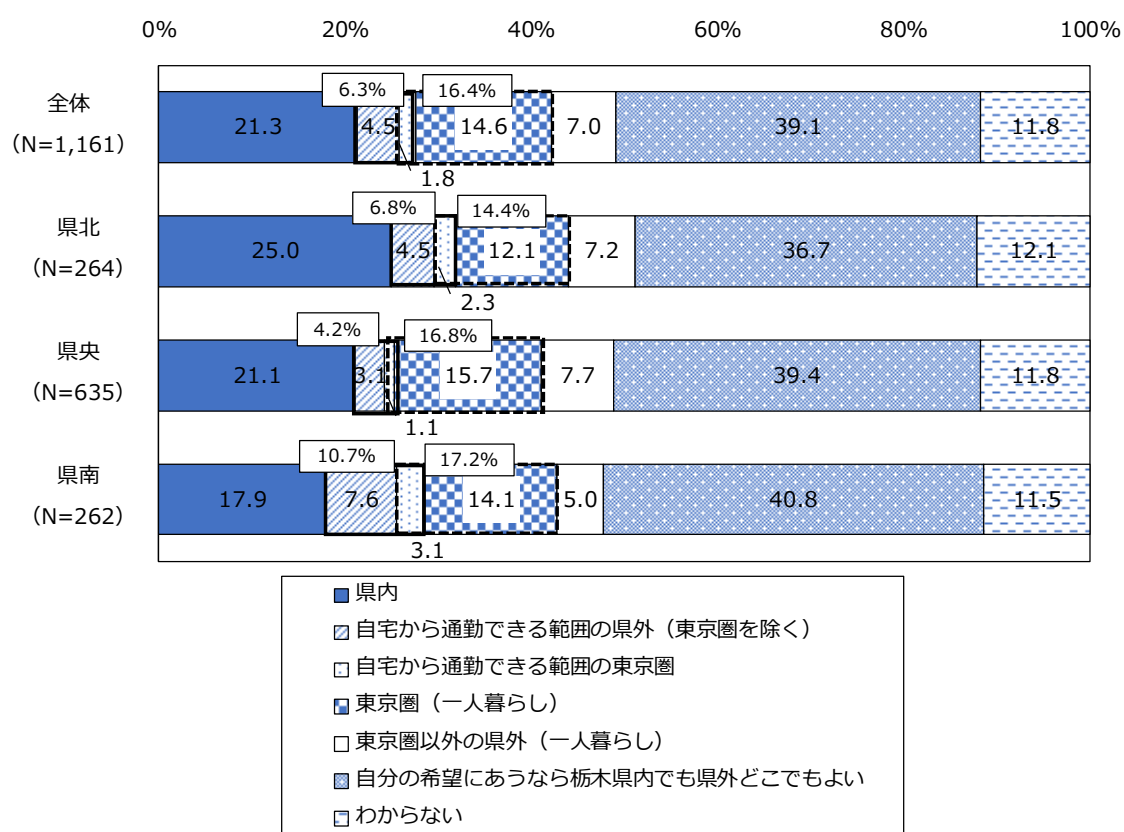
※ この図表については、文系男子の人数が少ないことに留意する必要がある。

図表5-(2)-3は就職先の希望地域を学校所在地域別に見たものである。

県内での就職を希望する割合は県北地域が最も高くなっている（県北地域 25.0%、県央地域 21.1%、県南地域 17.9%）。また、自宅から通勤できる範囲の県外を選ぶ割合は県南地域が他の地域よりも高くなっている（県北地域 6.8%、県央地域 4.2%、県南地域 10.7%）。

なお、東京圏への就職を希望する割合は、地域による差がほとんどみられない（県北地域 14.4%、県央地域 16.8%、県南地域 17.2%）。

図表5-(2)-3 就職先の希望地域(学校所在地域別)



設問6 就職先の希望地域として“東京圏”を希望する理由は何ですか。(複数回答、あてはまるものすべて)

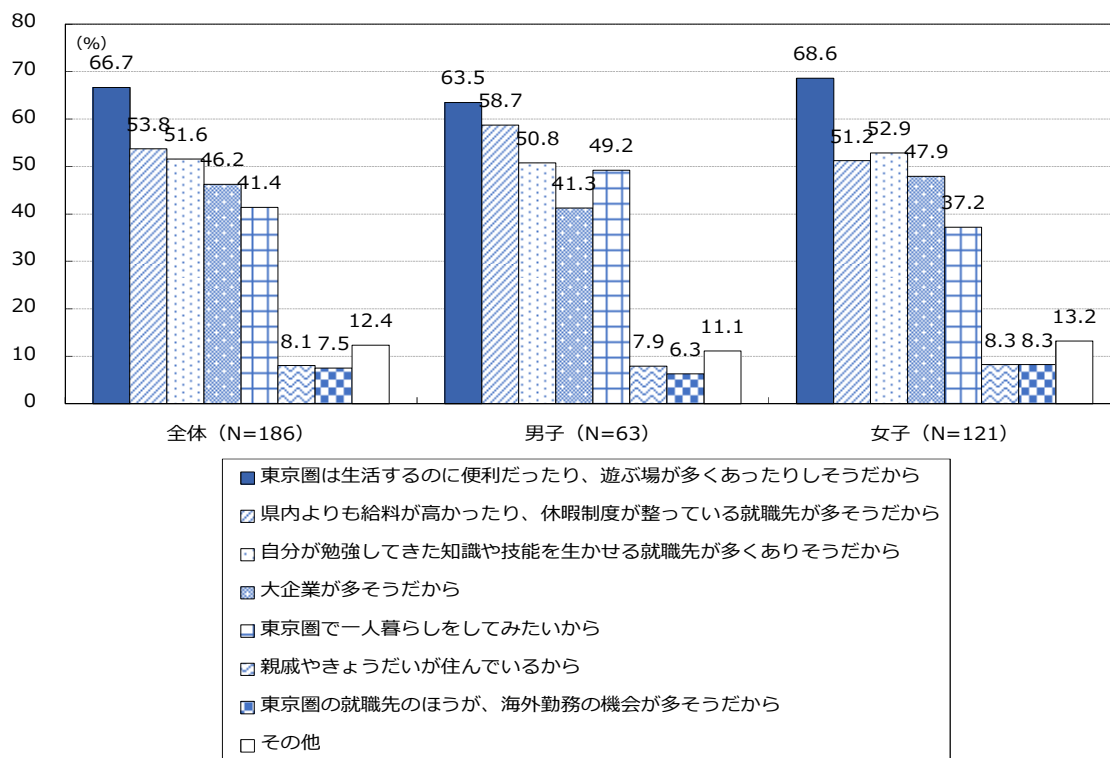
図表6-1は、就職先の希望地として東京圏を希望する生徒についてその理由を見たものである。

男子・女子ともに「東京圏は生活するのに便利だったり、遊ぶ場が多くあったりしそうだから」が最も割合が高くなっている（男子 63.5%、女子 68.6%）。

その他の項目について見ると、男子は女子に比べ「東京で1人暮らしをしてみたいから」（男子 49.2%、女子 37.2%）が特に割合が高く、「県内よりも給料が高かったり、休暇制度が整っている就職先が多そうだから」（男子 58.7%、女子 51.2%）も割合が高くなっている。

また、女子は男子に比べ「大企業が多そうだから」（男子 41.3%、女子 47.9%）で割合が高くなっている。

図表6-1 就職先として東京圏を希望する理由(男女別)



図表6-1について、さらに“自分は理系”※とする生徒の回答を男女別に見たのが図表6-2である。

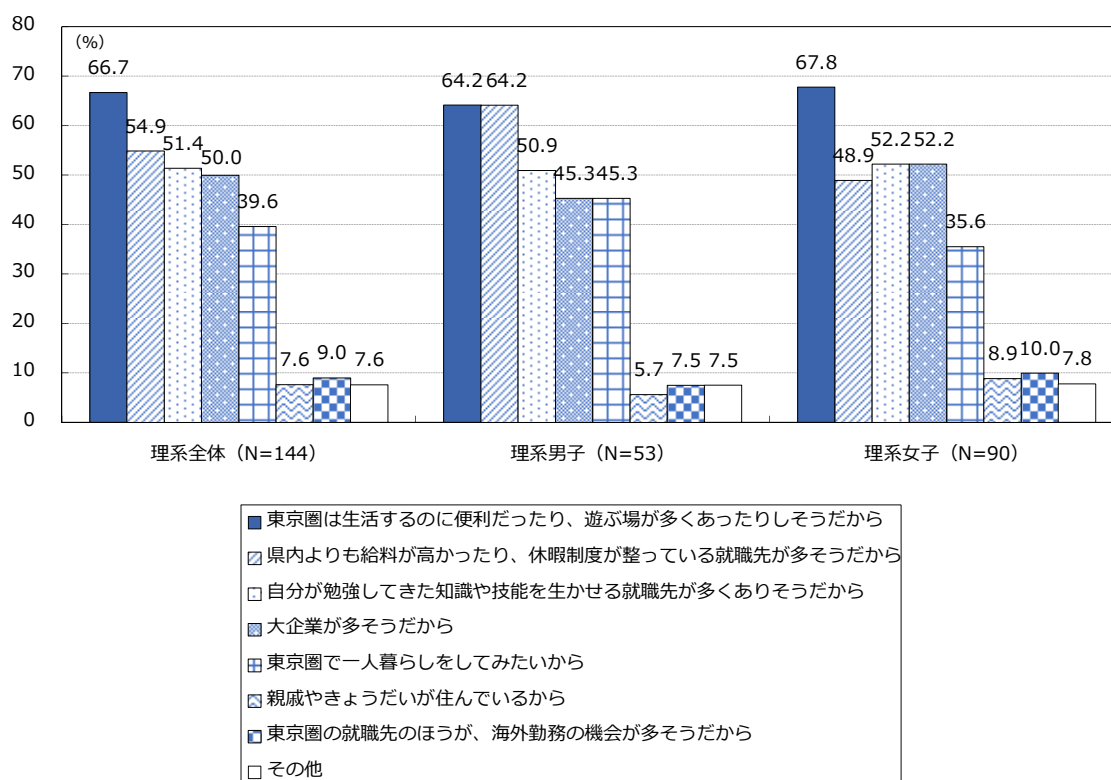
「東京圏は生活するのに便利だったり、遊ぶ場が多くあったりしそうだから」（男子 64.2%、女子 67.8%）、「自分が勉強してきた知識や技能を生かせる就職先が多くありそうだから」（男子 50.9%、女子 52.2%）は、ほぼ男子・女子とも割合に差は見られない。

一方、男子は女子に比べ、「県内よりも給料が高かったり、休暇制度が整っている就職先が多そうだから」（男子 64.2%、女子 48.9%）、「東京圏で一人暮らしをしてみたいから」（男子 45.3%、女子 35.6%）の割合が特に高くなっている。

女子は男子に比べ「大企業が多そうだから」（男子 45.3%、女子 52.2%）の「割合が高くなっている。

※ “自分は理系”：設問3で「理系」または「どちらかといえば理系」と回答した生徒

図表6-2 就職先として東京圏を希望する理由(理系・男女別)



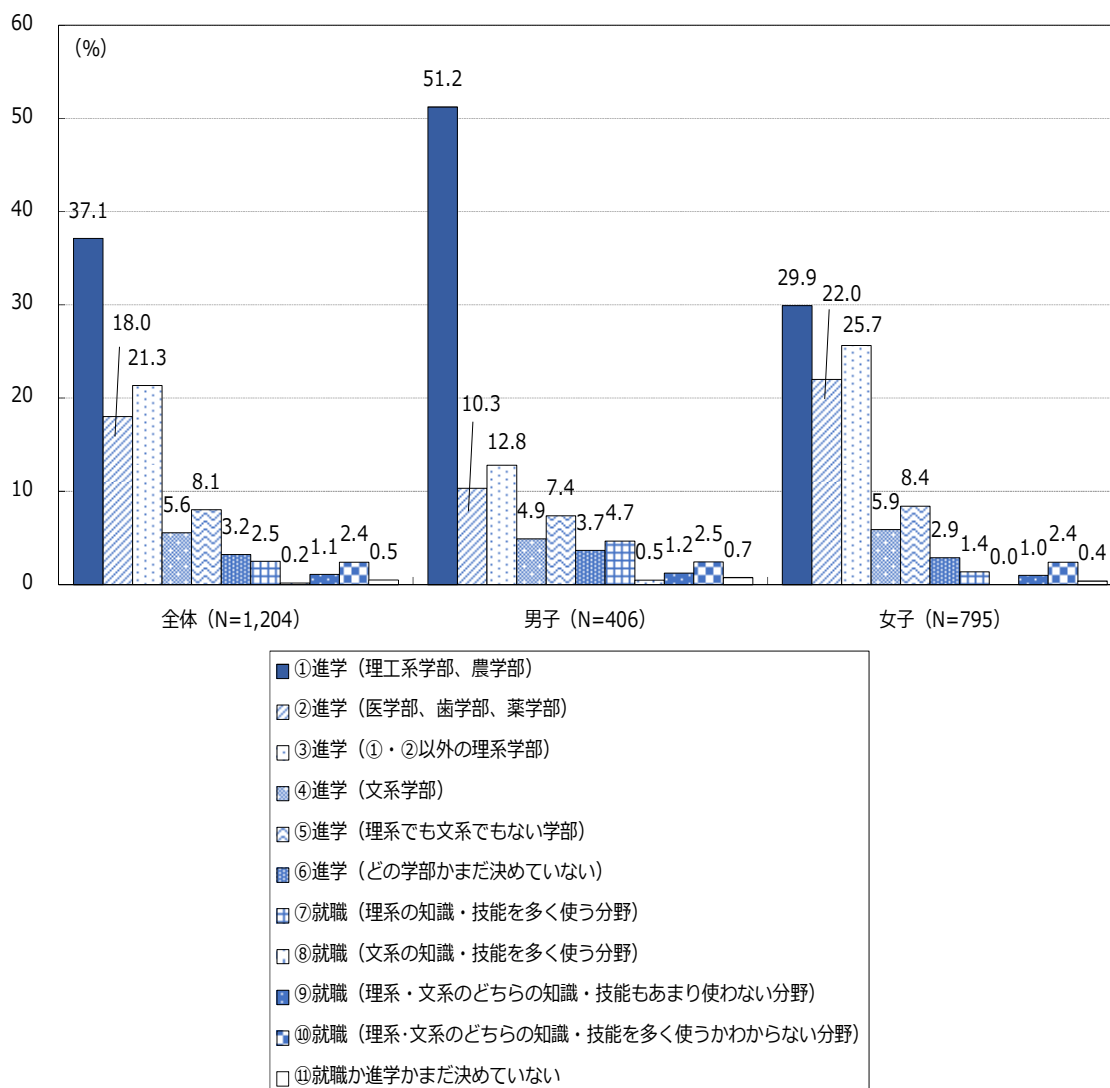
設問7(1) 現在、どのような進路を希望していますか。(単一回答)

図表7-(1)-1は、現在どのような進路を希望しているのかを見たものである。

全体(合計)では、「①進学(理工系学部、農学部)」の割合が最も高くなっている(男子51.2%、女子29.9%)。

男女別に見ると、女子は「①進学(理工系学部、農学部)」(29.9%)以外にも「②進学(医学部、歯学部、薬学部)」(22.0%)、「③進学(①・②以外の理系学部)」(25.7%)がそれぞれ2～3割となっているのに対し、男子は「①進学(理工系学部、農学部)」(51.2%)が5割を占め、他を大きく上回っている。

図表7-(1)-1 現在の希望する進路(男女別)



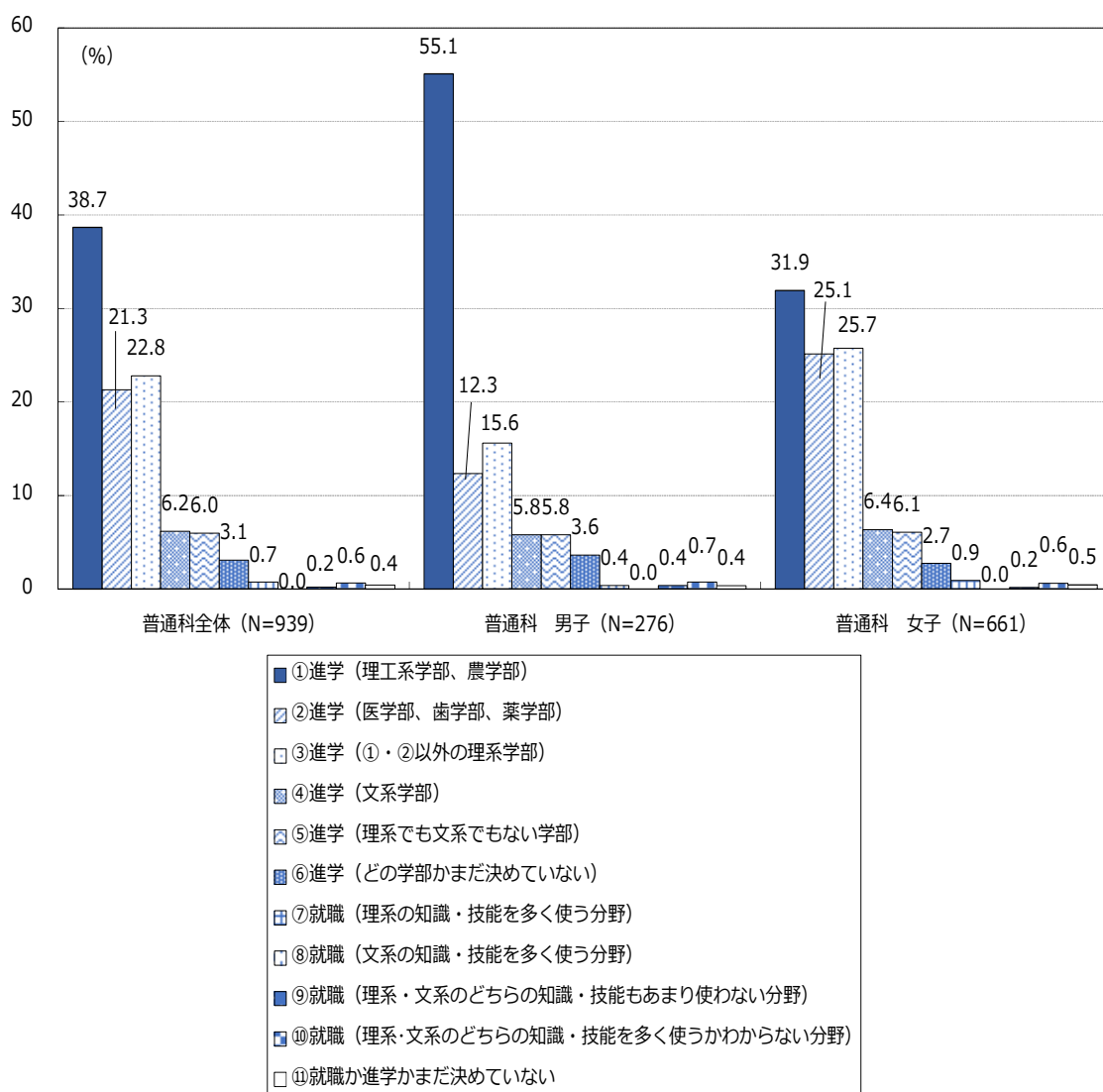
図表 7-(1)-1 を学科別に見たのが図表 7-(1)-2 と図表 7-(1)-3 である。

普通科 (図表 7-(1)-2) 全体では、最も割合が高いのは「①進学 (理工系学部、農学部)」(38.7%) となっており、「②進学 (医学部、歯学部、薬学部)」(21.3%)、「③進学 (①・②以外の理系学部)」(22.8%) も 2 割を超えている。

男女別に見ると、男子は「①進学 (理工系学部、農学部)」が 55.1% と他を大きく上回っている。次いで、「③進学 (①・②以外の理系学部)」(15.6%)、「②進学 (医学部、歯学部、薬学部)」(12.3%) の順となっている。

女子は「①進学 (理工系学部、農学部)」(31.9%)、「②進学 (医学部、歯学部、薬学部)」(25.1%)、「③進学 (①・②以外の理系学部)」(25.7%) がそれぞれ 2 ～ 3 割となっている。

図表 7-(1)-2 現在の希望する進路 (普通科・男女別)

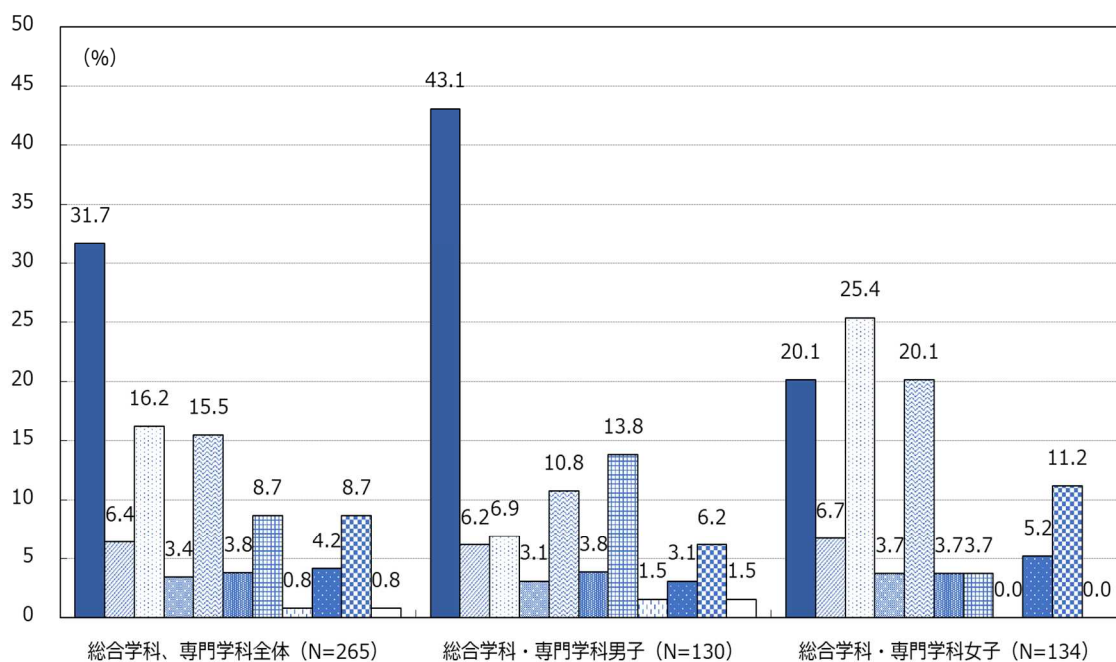


総合学科・専門学科（図表7-(1)-3）では、全体で最も割合が高いのは「①進学（理工系学部、農学部）」（31.7%）となっている。次に割合が高いのは「③進学（①・②以外の理系学部）」（16.2%）及び「⑤進学（理系でも文系でもない学部）」（15.5%）となっている。

男女別に見ると、男子は「①進学（理工系学部、農学部）」（43.1%）の割合が最も高く、他の項目を大きく上回っている。次いで、「⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）」（13.8%）、「⑤進学（理系でも文系でもない学部）」（10.8%）の順となっている。

女子は「③進学（①・②以外の理系学部）」（25.4%）の割合が最も高く、次いで「①進学（理工系学部、農学部）」、「⑤進学（理系でも文系でもない学部）」（各 20.1%）の順となっている。

図表7-(1)-3 現在の希望する進路(総合学科・専門学科・男女別)



- ①進学（理工系学部、農学部）
- ▨ ②進学（医学部、歯学部、薬学部）
- ③進学（①・②以外の理系学部）
- ▨ ④進学（文系学部）
- ▨ ⑤進学（理系でも文系でもない学部）
- ▨ ⑥進学（どの学部かまだ決めていない）
- ▨ ⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）
- ▨ ⑧就職（文系の知識・技能を多く使う分野）
- ▨ ⑨就職（理系・文系のどちらの知識・技能もあまり使わない分野）
- ▨ ⑩就職（理系・文系のどちらの知識・技能を多く使うかわからない分野）
- ⑪就職か進学かまだ決めていない

設問7(2) 保護者は、理系の進路を選択することについて、理解を示していますか
(賛成していますか)。(単一回答)

図表7-(2)は、高校卒業後に理系の進路(進学または就職)を希望している生徒^{※1}について、自身の進路選択に対する保護者の理解状況を見たものである。

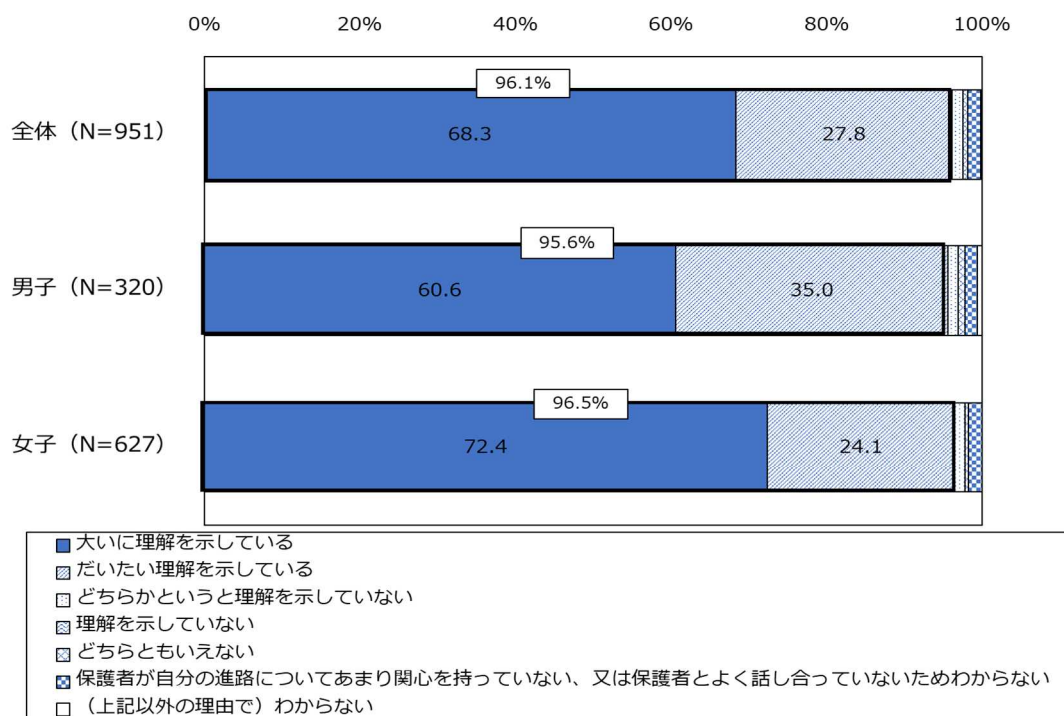
保護者から理解を示されている割合^{※2}は男子・女子ともに9割を超えている。(男子95.6%、女子96.5%)。

男女別に見ると、男子・女子ともに「大いに理解を示している」の割合が最も高く、その割合は女子の方が高くなっている(男子60.6%、女子72.4%)。

※1 高校卒業後に理系の進路(進学または就職)を希望している生徒：設問7(1)の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学(理工系学部、農学部)」・「②進学(医学部、歯学部、薬学部)」・「③進学(①・②以外の理系学部)」・「⑦就職(理系の知識・技能を多く使う分野)」のいずれかを選択した生徒)

※2 保護者から理解を示されている割合：「大いに理解を示している」と「だいたい理解を示している」の合計

図表7-(2) 理系の進路選択に対する保護者の理解(男女別)



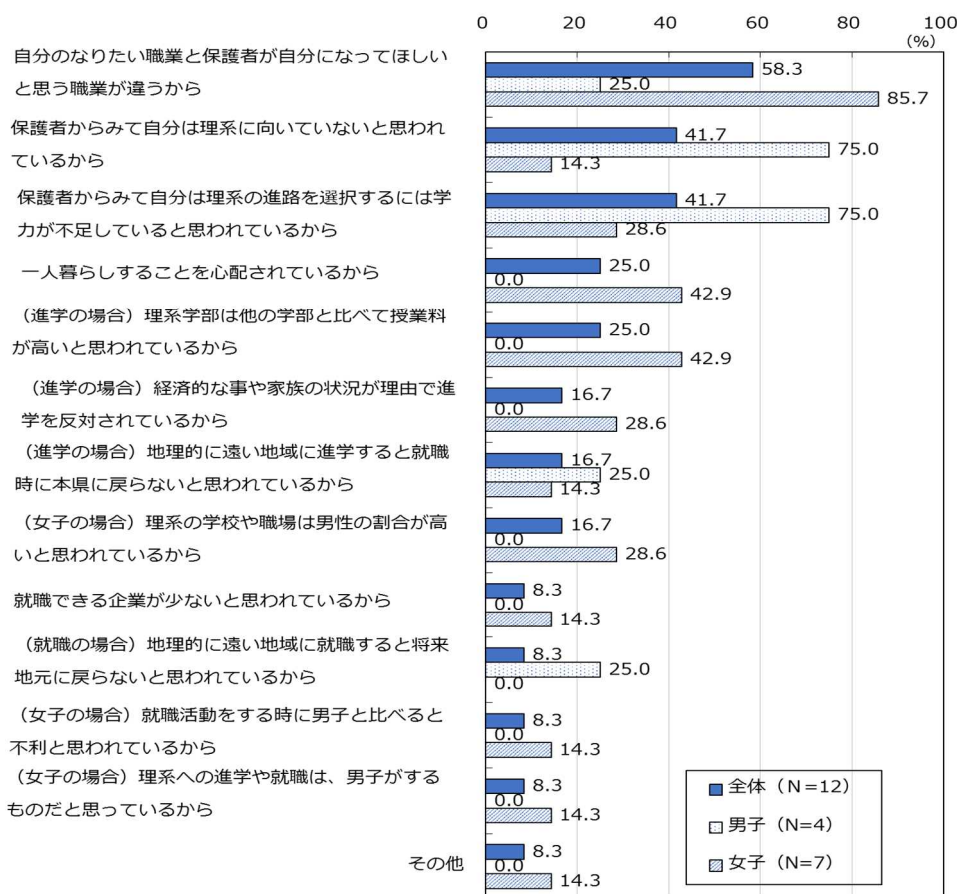
設問8 理系の進路選択に対し、保護者が理解を示していないのは、どのような理由からだと思いますか。(複数回答、あてはまるものすべて)

図表8は、保護者から理系の進路選択について理解を示されていない生徒※について、その理由を見たものである。

女子の回答を見ると、「自分のなりたい職業と保護者が自分になってほしいと思う職業が違うから」の割合が最も高く、85.7%（7人中6人）となっている。以下「一人暮らしをすることを心配されているから」、「（進学の場合）理系学部は他の学部と比べて授業料が高いと思われるから」が42.9%（いずれも3人）となっている。

※ 保護者から理系の進路選択について理解を示されていない生徒：設問7(2)で「どちらかという理解を示していない」または「理解を示していない」と回答した生徒。

図表8 理系の進路選択に対し保護者が理解を示していない理由(男女別)



※ この図表については、回答人数が少ないことに留意する必要がある。

設問9 最終的にどの学校(最終学歴)まで進学したいですか。(単一回答)

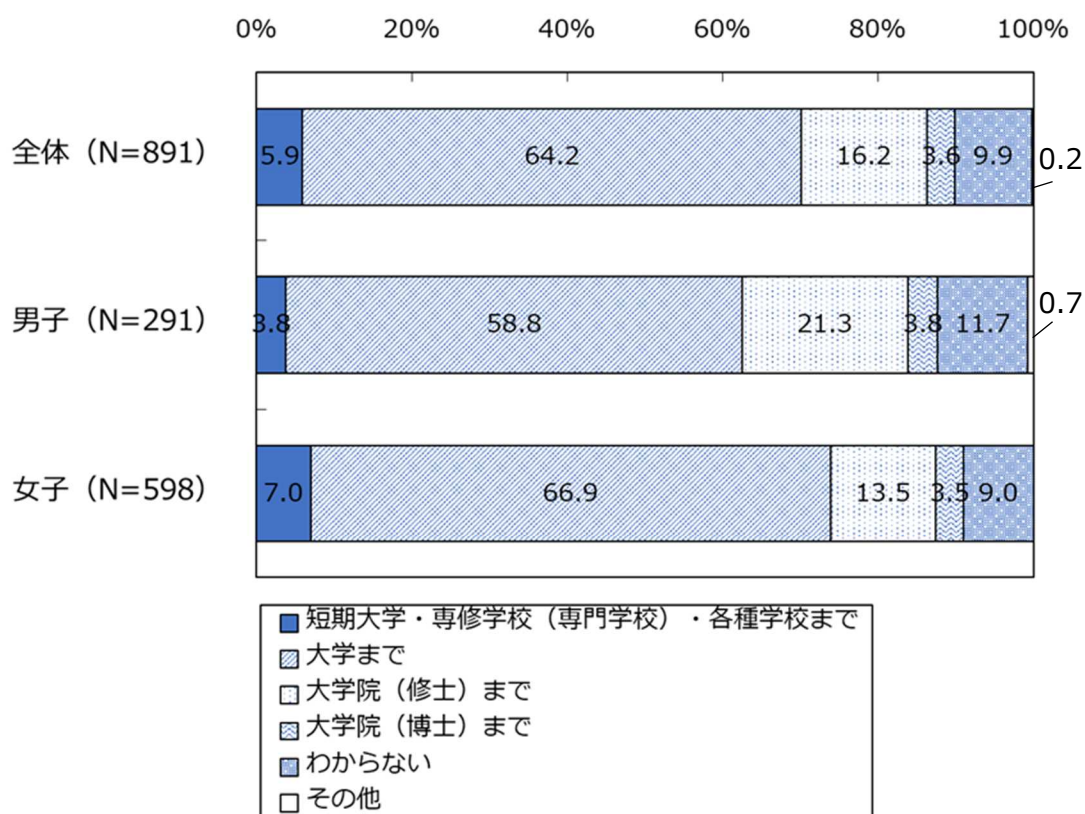
図表9-1は、高校卒業後に理系学部への進学を希望している生徒※が希望する最終学歴を見たものである。男子・女子ともに、「大学まで」の割合が最も高く、女子の方が高くなっている（男子58.8%、女子66.9%）。

男子は、女子に比べ「大学院（修士）まで」の割合が高くなっている（男子21.3%、女子13.5%）。

なお、「大学院（博士）まで」の割合については差がみられない（男子3.8%、女子3.5%）。

※ 高校卒業後に理系学部への進学を希望している生徒：設問7(1)の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学（理工系学部、農学部）」・「②進学（医学部、歯学部、薬学部）」・「③進学（①・②以外の理系学部）」のいずれかを選択した生徒

図表9-1 理系学部への進学を希望する生徒が希望する最終学歴(男女別)



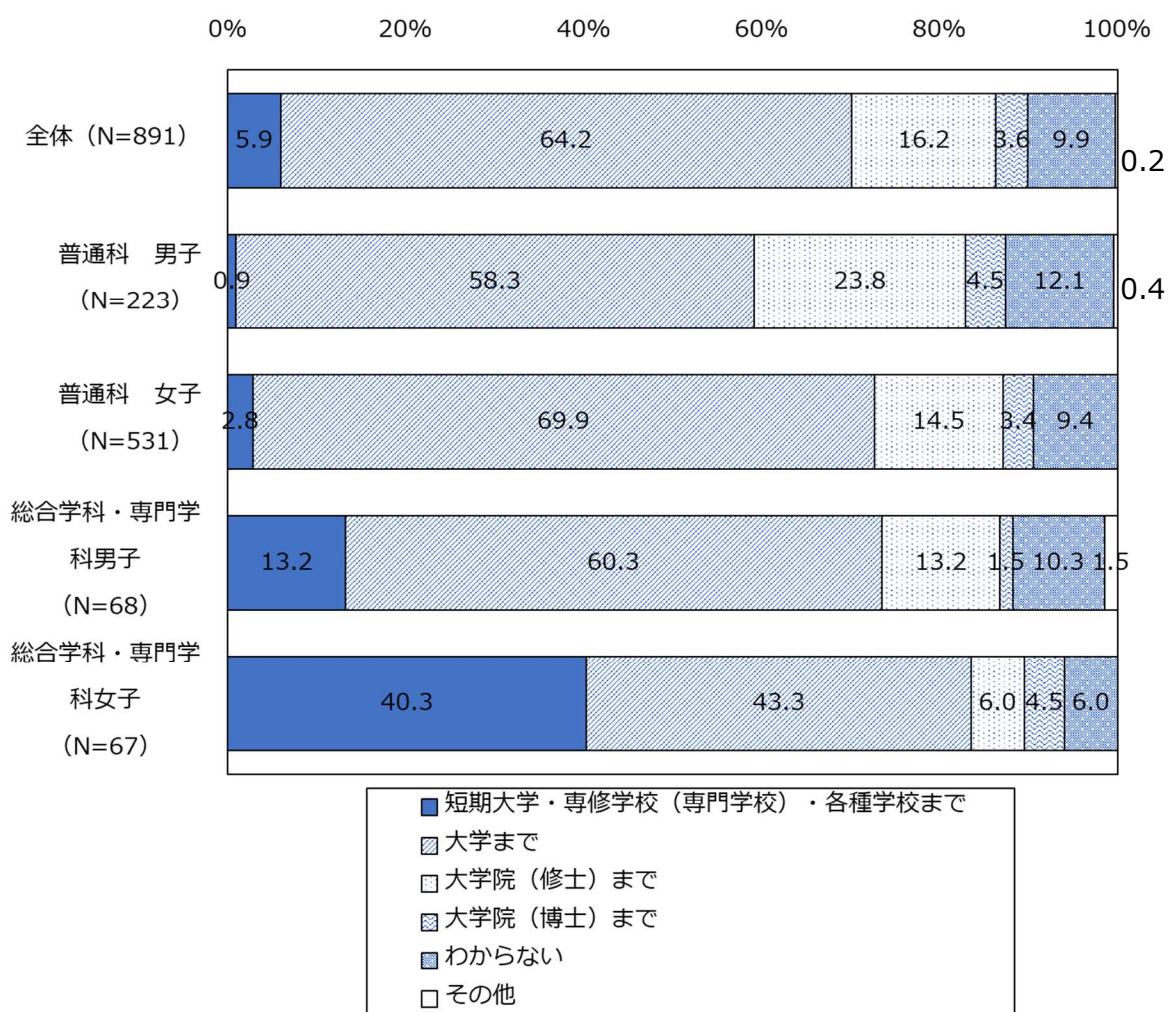
図表 9-2 は、図表 9-1 を学科別に見たものである。

学科や性別にかかわらず、「大学まで」が最も割合が高くなっている（普通科男子 58.3%、普通科女子 69.9%、総合学科・専門学科男子 60.3%、総合学科・専門学科女子 43.3%）。

「大学院（修士まで）」については、普通科男子が他よりも割合が高くなっている（普通科男子 23.8%、普通科女子 14.5%、総合学科・専門学科男子 13.2%、総合学科・専門学科女子 6.0%）。

総合学科・専門学科女子では、「大学まで」と並んで「短期大学・専修学校（専門学校）・各種学校まで」の割合も 40.3%となっている。

図表9-2 理系学部への進学を希望する生徒が希望する最終学歴(学科・男女別)



設問 10(1) 設問7(1)の進路を希望するようになった時期はいつからですか。(単一回答)

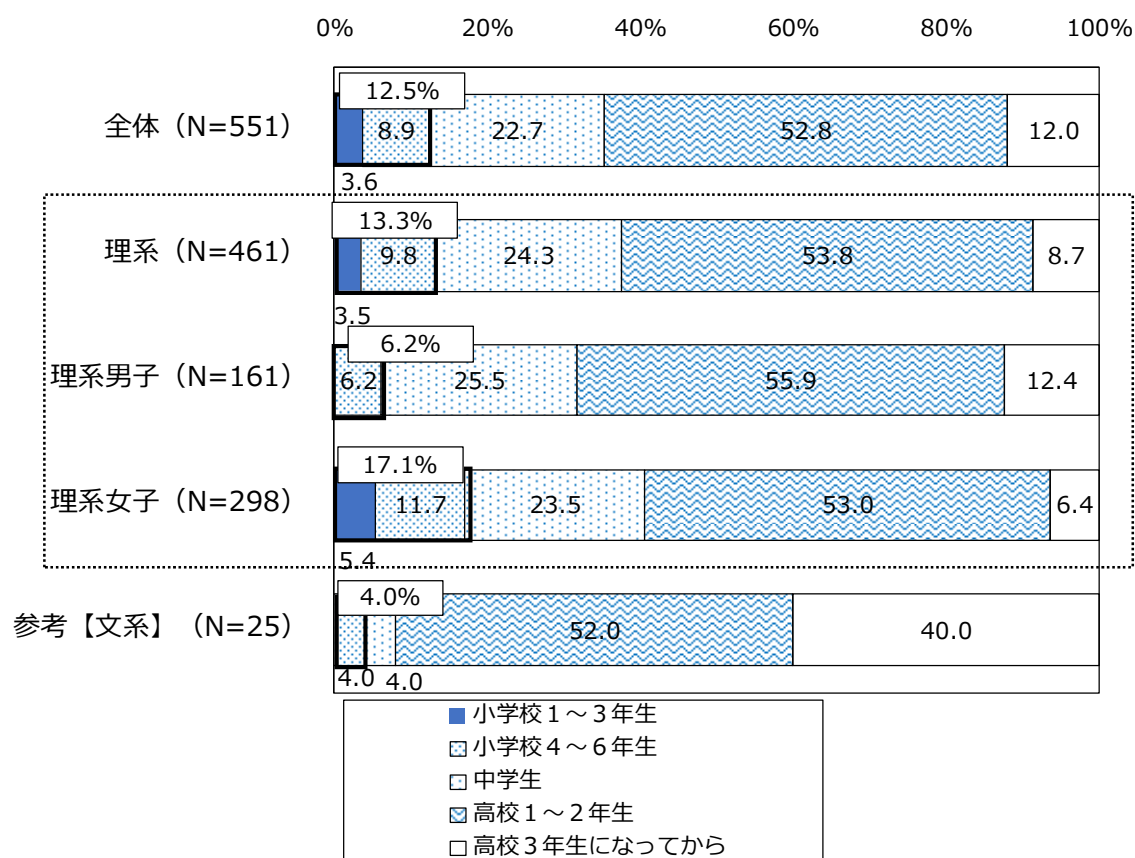
図表 10-(1)は、現在考えている進路を希望するようになった時期について、理系の進路（進学または就職）を希望している生徒*を男女別に見たものである。

男子・女子ともに「高校1～2年生」の割合が最も高くなっている（男子 55.9%、女子 53.0%）。

男女別にみると、女子の方が男子よりも、小学校の時期から現在考えている進路を希望していた割合高くなっている（「小学校1～3年生」（男子 0.0%、女子 5.4%）、「小学校4～6年生」（男子 6.2%、女子 11.7%））。

※ 理系の進路（進学または就職）を希望している生徒：設問7(1)の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学（理工系学部、農学部）」・「②進学（医学部、歯学部、薬学部）」・「③進学（①・②以外の理系学部）」・「⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）」のいずれかを選択した生徒

図表 10-(1) 進路を希望するようになった時期(理系・男女別)



設問 10(2) 設問7(1)の進路を希望するのはどのような理由からですか。(複数回答、
あてはまるものすべて)

図表 10-(2)は、設問 7 (1) で回答した進路を選択した理由について見たものである※。

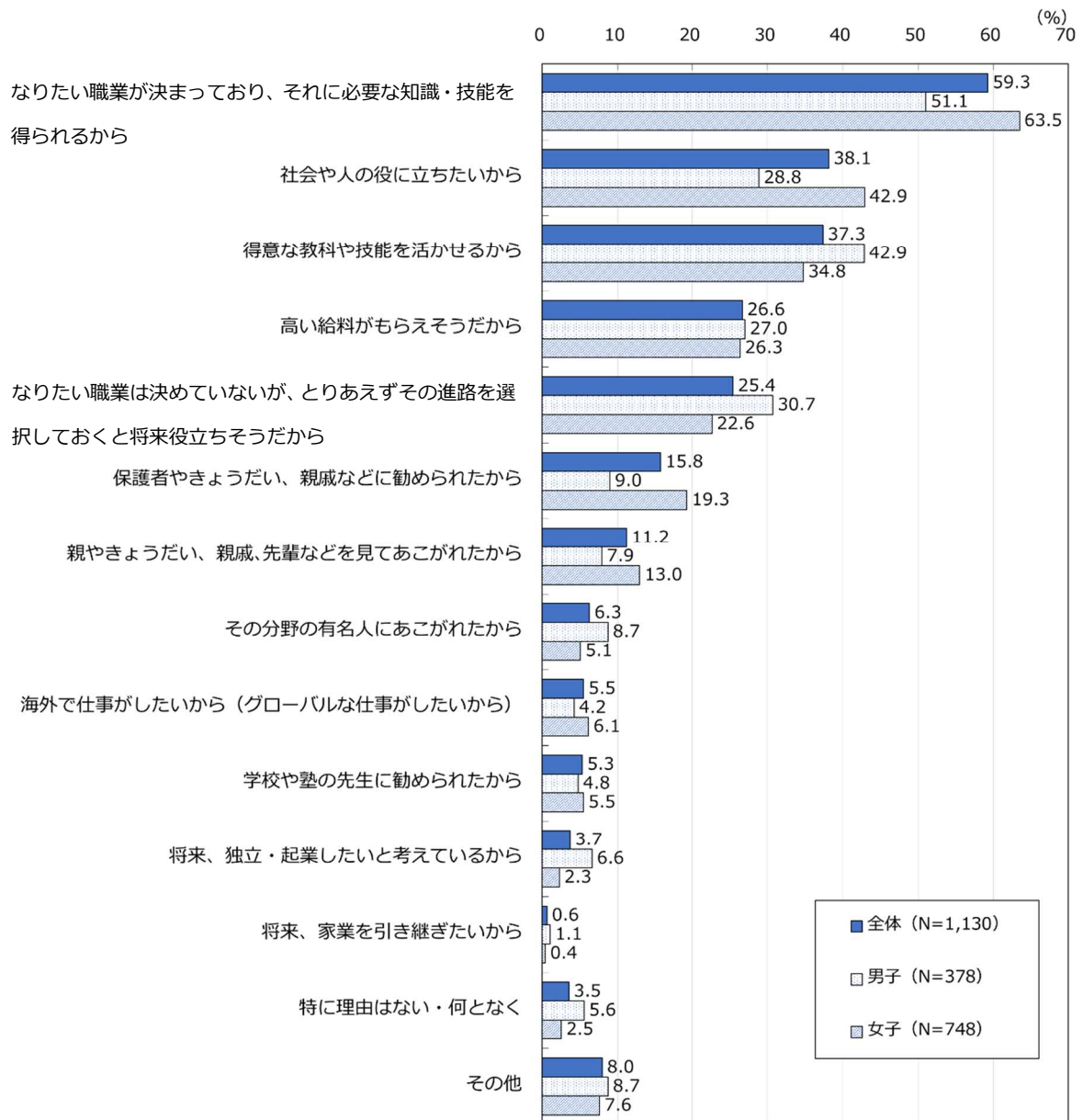
全体では、「なりたい職業が決まっており、それに必要な知識・技能を得られるから」が 59.3%と最も高く、他の項目を大きく上回っている。続いて、「社会や人の役に立ちたいから」(38.1%)、「得意な教科や技能を活かせるから」(37.3%)となっている。

男女別に見ると、男子の方が女子よりも特に割合が高いのは、「得意な教科や技能を活かせるから」(男子 42.9%、女子 34.8%)、「なりたい職業は決めていないが、とりあえずその進路を選択しておく将来役立ちそうだから」(男子 30.7%、女子 22.6%)となっている。

女子の方が男子よりも特に割合が高いのは、「なりたい職業が決まっており、それに必要な知識・技能を得られるから」(男子 51.1%、女子 63.5%)や「社会や人の役に立ちたいから」(男子 28.8%、女子 42.9%)、「保護者やきょうだい、親戚などに勧められたから」(男子 9.0%、19.3%)となっている。

※ 設問 7 (1) で「⑪就職か進学がまだ決めていない」を選択した生徒を除く。

図表 10－(2) 進路を選択する理由(男女別)



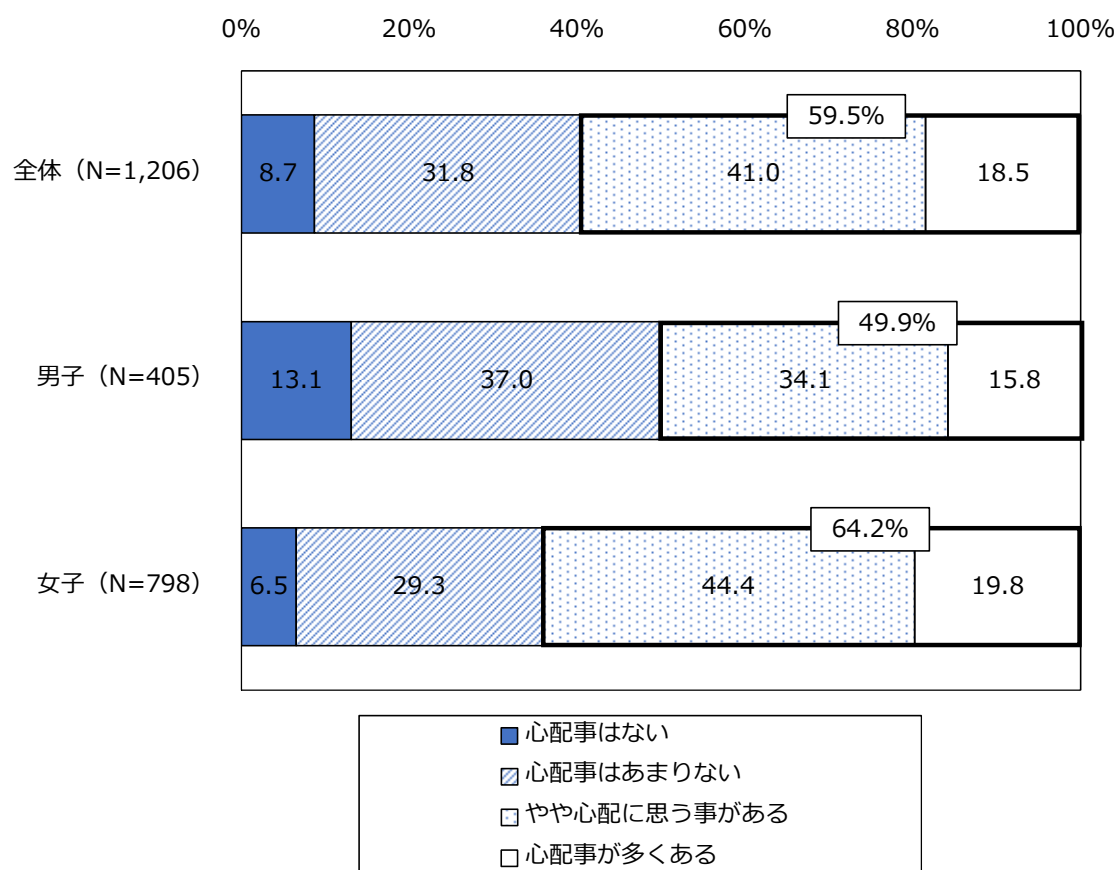
設問 11(1) これから就職や進学をするにあたって、心配なことはありますか。(単一回答)

図表 11-(1)-1 は、これから就職や進学をするにあたっての心配事の有無を男女別に見たものである。

全体で見ると、「心配事がある」※と回答した生徒の割合が 59.5%となっており、男女別に見ると、「心配事がある」と回答した生徒の割合は女子の方が高くなっている(男子 49.9%、女子 64.2%)。一方で、「心配事はない」と回答した生徒の割合は男子の方が高くなっている(男子 13.1%、女子 6.5%)。

※ 心配事がある：「やや心配に思う事がある」と「心配事が多くある」の合計

図表 11-(1)-1 就職や進学にあたっての心配事の有無(男女別)

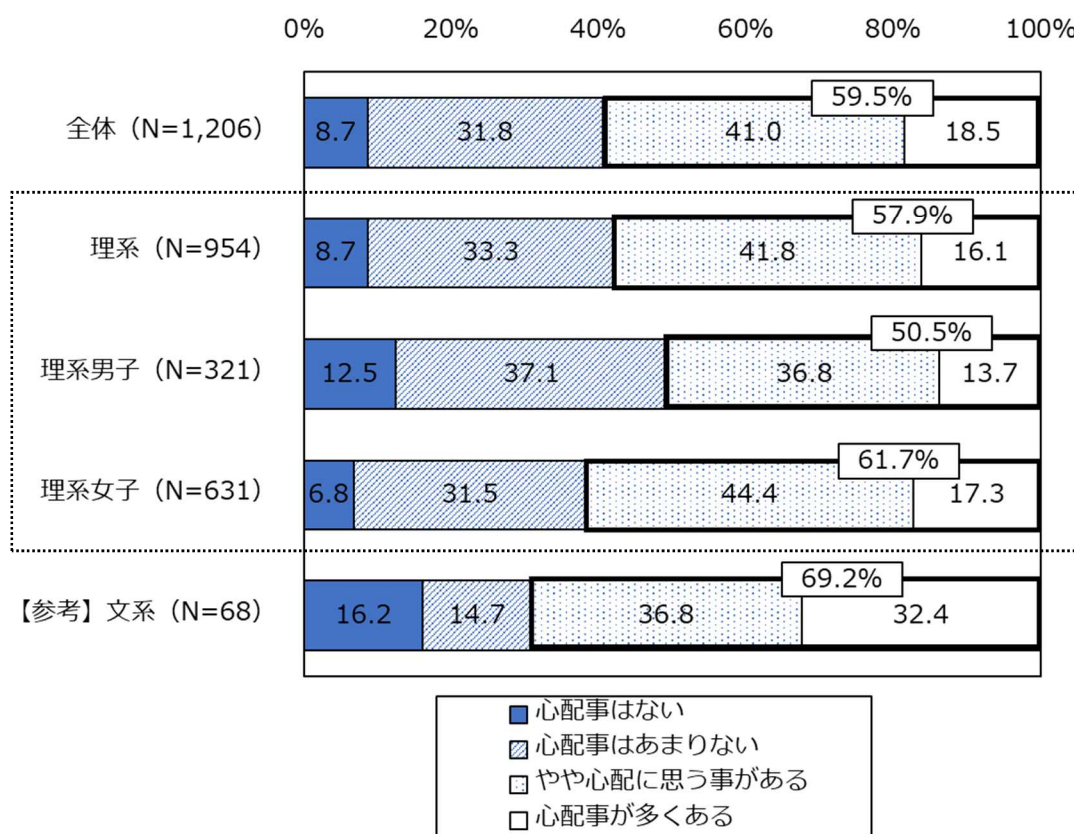


図表 11-(1)-2 は、図表 11-(1)-1 のうち、理系の進路（進学または就職）を希望している生徒※について男女別に見たものである。

女子の方が、男子よりも「心配事がある」と回答した生徒の割合が高くなっている（男子 50.5%、女子 61.7%）。

※ 理系の進路（進学または就職）を希望している生徒：設問 7 (1) の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学（理工系学部、農学部）」・「②進学（医学部、歯学部、薬学部）」・「③進学（①・②以外の理工系学部）」・「⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）」のいずれかを選択した生徒

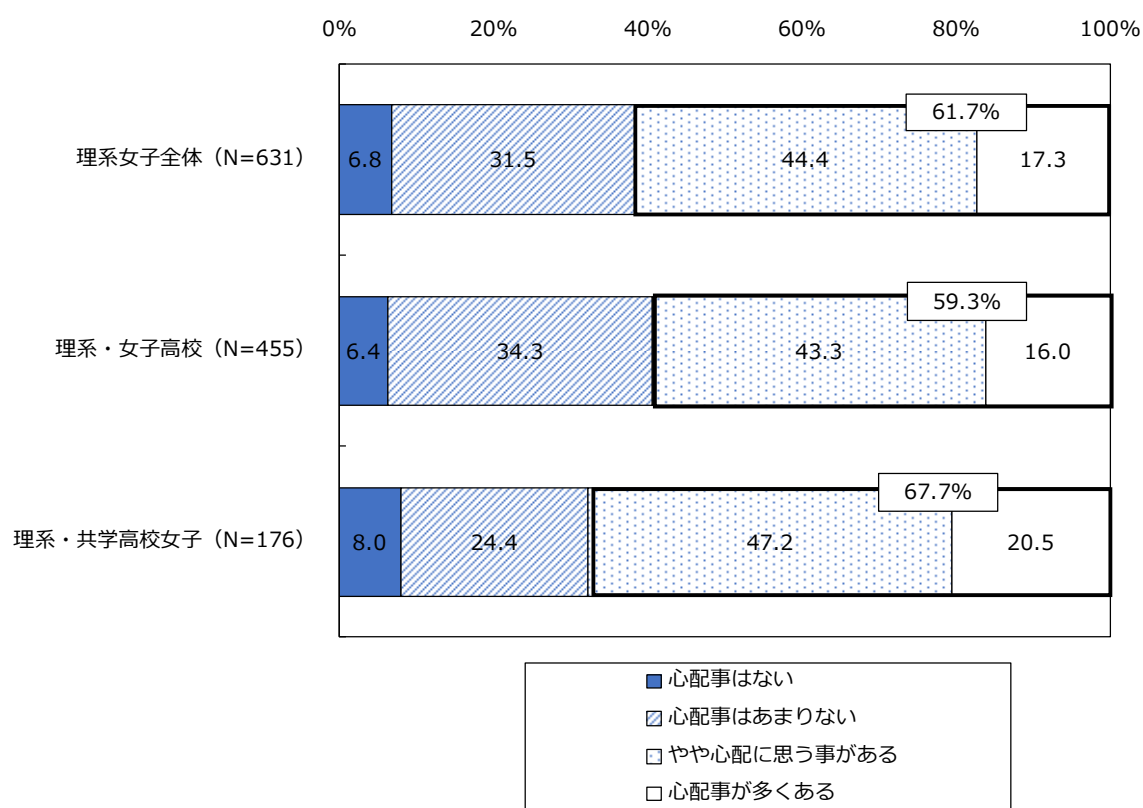
図表 11-(1)-2 就職や進学にあたっての心配事の有無(理系・男女別)



図表 11-(1)-3 は、図表 11-(1)-2 の理系女子の回答を、女子高校と共学高校別に見たものである。

「心配事がある」とした生徒の割合は共学高校の方が高くなっている（理系・女子高校 59.3%、理系・共学高校 67.7%）。

図表 11-(1)-3 就職や進学にあたっての心配事の有無
(理系女子・女子高校・共学高校別)



設問 11(2) 心配事はどのような事ですか。(複数回答、3つまで)

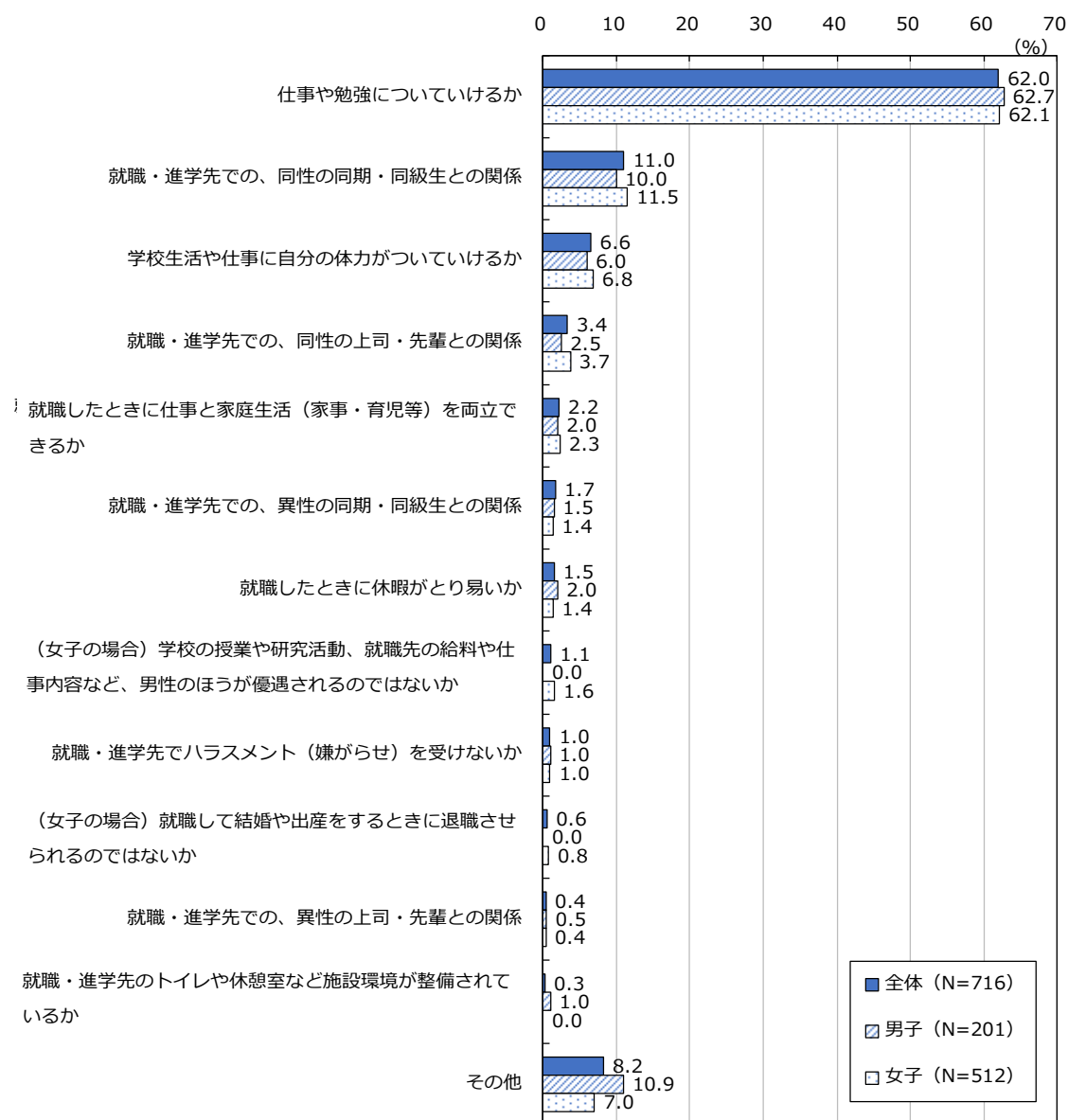
図表 11-(2)-1 は、これから就職や進学をするにあたって、「心配事がある」と回答した生徒※¹について、心配事の内容を見たものである※²。

最も心配な事としては、男子・女子ともに「仕事や勉強についていけるか」となっている(男子 62.7%、女子 62.1%)。

※1 「心配事がある」と回答した生徒：設問 11(1)で「やや心配に思う事がある」または「心配事がある」と回答した生徒

※2 回答用紙には、心配に思う順に最大3つまでの回答を依頼した。図表 11-(2)-1 は回答欄のうち、最も心配に思う事として1番目の記入欄に記載のあったものを集計した。

図表 11-(2)-1 就職や進学にあたって最も心配な事(男女別)



図表 11-(2)-2 は、図表 11-(2)-1 の最も心配な事を文理別に見たものである。

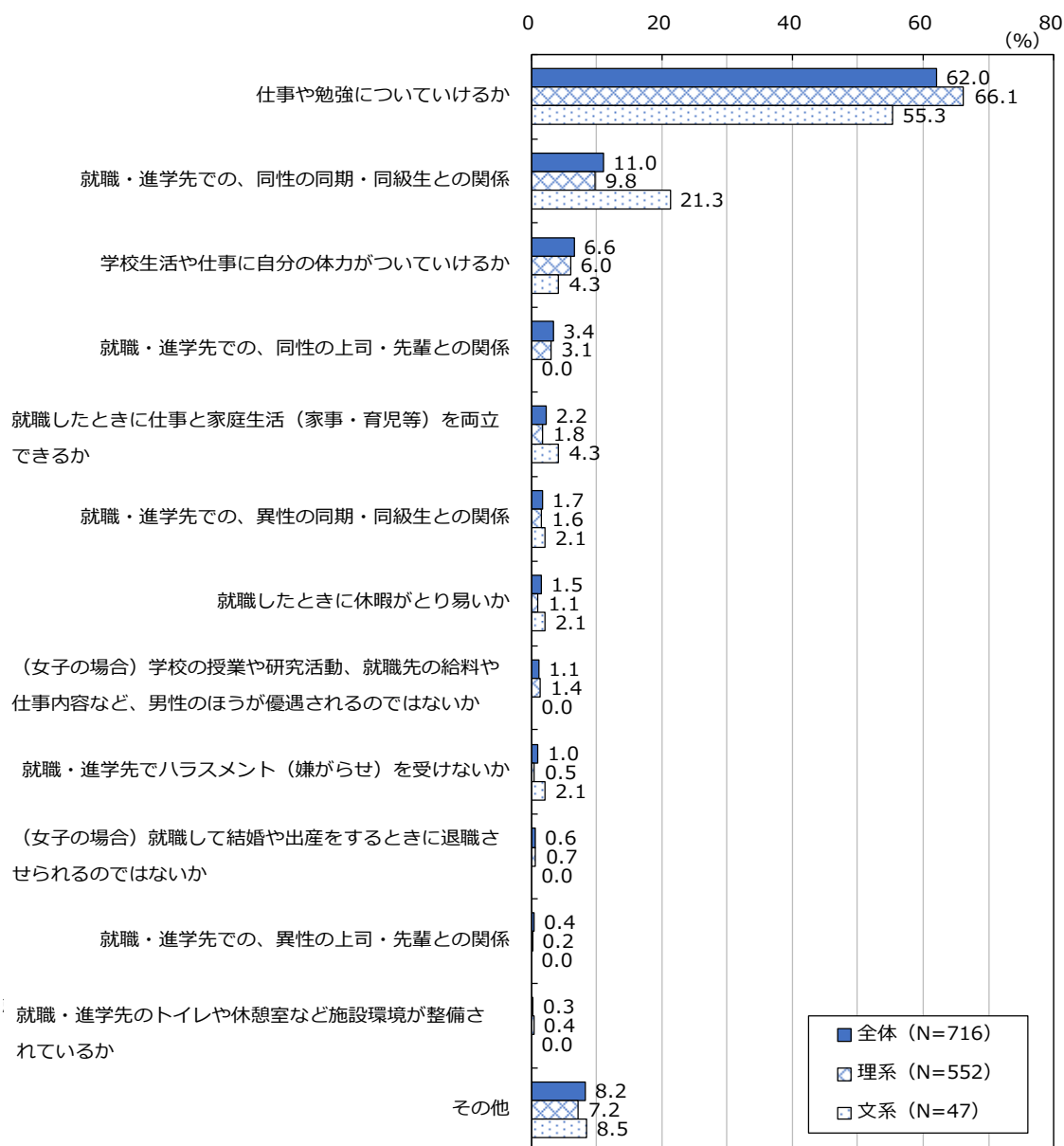
「仕事や勉強についていけるか」と回答した生徒の割合は理系※¹の方が高くなっている（理系 66.1%、文系 55.3%）。

一方、文系※²は「就職・進学先での、同性の同期・同級生との関係」の割合が理系よりも高くなっている（理系 9.8%、文系 21.3%）。

※1 理系：設問 7 (1) の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学（理工系学部、農学部）」・「②進学（医学部、歯学部、薬学部）」・「③進学（①・②以外の理系学部）」・「⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）」のいずれかを選択した生徒

※2 文系：設問 7 (1) の“高校卒業後に希望する進路”において、「④進学（文系学部）」・「⑧就職（文系の知識・技能を多く使う分野）」のいずれかを選択した生徒

図表 11-(2)-2 就職や進学にあたって最も心配な事(文理別)



設問 12 理系の進路を選択する女子を増やすためには、どのようなことをすると効果があると思いますか。(複数回答、あてはまるものすべて)

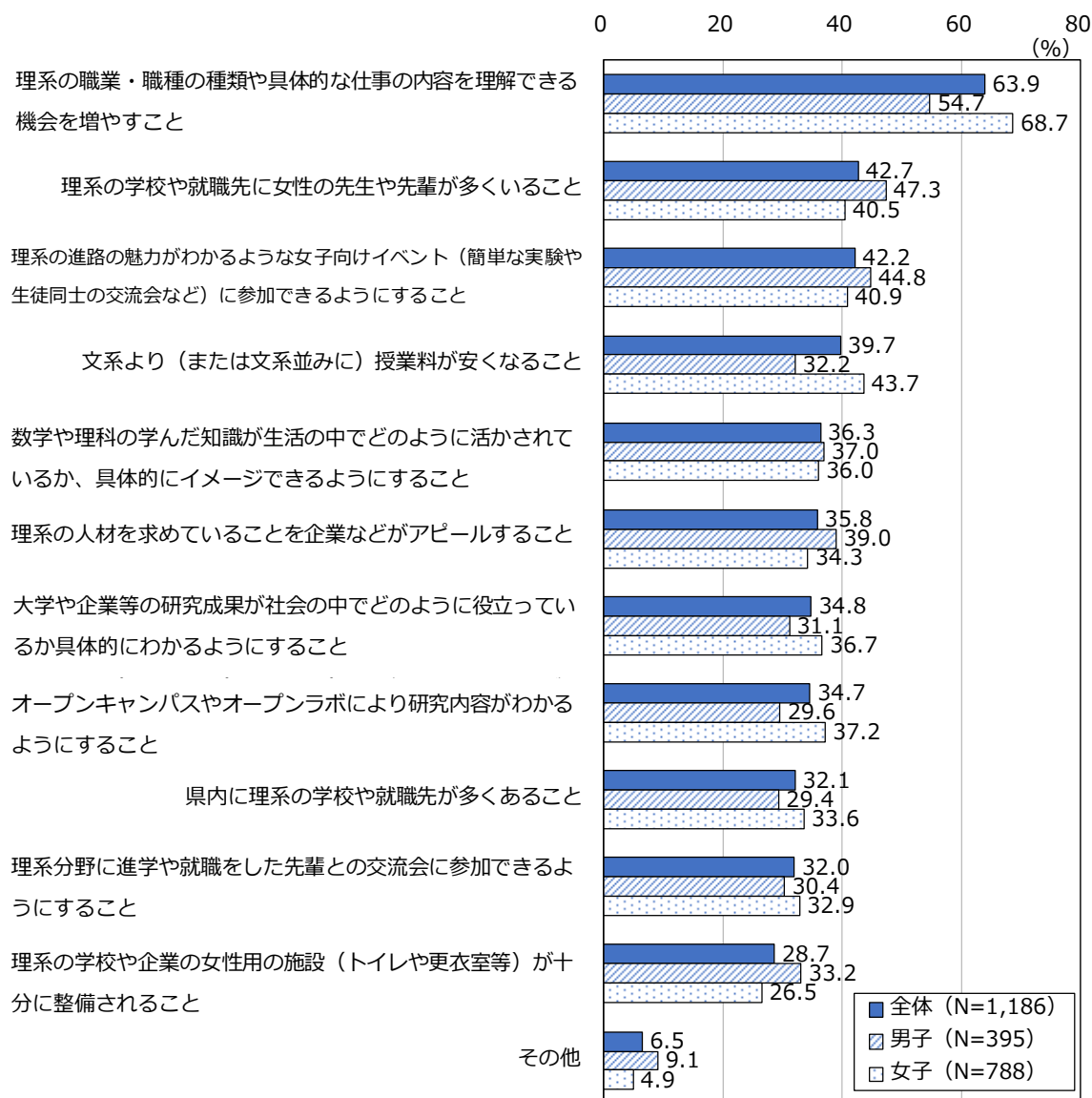
図表 12-1 は、理系の進路選択をする女子を増やすために効果があると思う取組を見たものである。

全体で見ると、「理系の職業・職種の種類や具体的な仕事の内容を理解できる機会を増やすこと」(63.9%)の割合が最も高く他の項目を大きく上回った。次いで、「理系の学校や就職先に女性の先生や先輩が多くいること」(42.7%)、「理系の進路の魅力がわかるような女子向けイベント(簡単な実験や生徒同士の交流会など)に参加できるようにすること」(42.2%)となっている。

男女別に見ると、男子の方が女子よりも回答割合が高い項目としては、「理系の学校や就職先に女性の先生や先輩が多くいること」(男子 47.3%、女子 40.5%)や「理系の進路の魅力がわかるような女子向けイベント(簡単な実験や生徒同士の交流会など)に参加できるようにすること」(男子 44.8%、女子 40.9%)、「理系の人材を求めていることを企業などがアピールすること」(男子 39.0%、女子 34.3%)、「理系の学校や企業の女性用の施設(トイレや更衣室等)が十分に整備されること」(男子 33.2%、女子 26.5%)等となっている。

女子の方が男子よりも回答割合が高い項目として、「理系の職業・職種の種類や具体的な仕事の内容を理解できる機会を増やすこと」(男子 54.7%、女子 68.7%)が特に高くなっている。また、「文系より(または文系並みに)授業料が安くなること」(男子 32.2%、女子 43.7%)、「大学や企業等の研究成果が社会の中でどのように役立っているか具体的にわかるようにすること」(男子 31.1%、女子 36.7%)、「オープンキャンパスやオープンラボにより研究内容がわかるようにすること」(男子 29.6%、女子 37.2%)等も高くなっている。

表 12-1 理系の進路選択をする女子を増やすために効果があると思う取組
(男女別)



図表 12-2 は、理系の進路を希望している生徒※について男女別に見たものである。

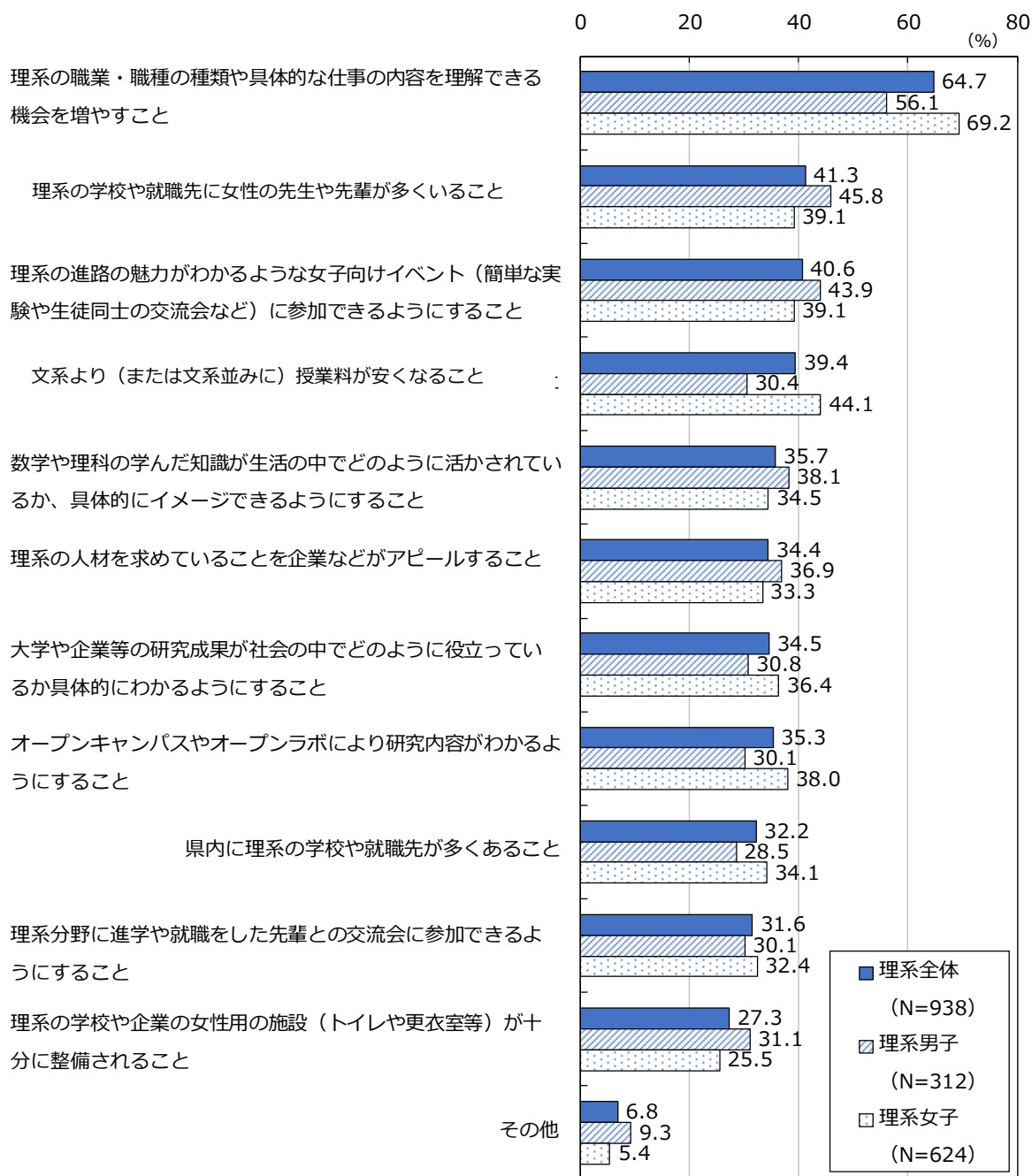
男子・女子ともに「理系の職業・職種の種類や具体的な仕事の内容を理解できる機会を増やすこと」が最も高く、その割合は女子の方が高くなっている（男子 56.1%、女子 69.2%）。

男子の方が女子よりも回答割合が高い項目は、「理系の学校や就職先に女性の先生や先輩が多くいること」（男子 45.8%、女子 39.1%）、「理系の進路の魅力がわかるような女子向けイベント（簡単な実験や生徒同士の交流会など）に参加できるようにすること」（男子 43.9%、女子 39.1%）、「理系の学校や企業の女性用の施設（トイレや更衣室等）が十分に整備されること」（男子 31.1%、女子 25.5%）等となっている。

女子の方が男子よりも回答割合が高い項目は、「理系の職業・職種の種類や具体的な仕事の内容を理解できる機会を増やすこと」（男子 56.1%、女子 69.2%）、「文系より（または文系並みに）授業料が安くなること」（男子 30.4%、女子 44.1%）、で特に高くなっている。また、「大学や企業等の研究成果が社会の中でどのように役立っているか具体的にわかるようにすること」（男子 30.8%、女子 36.4%）、「オープンキャンパスやオープンラボにより研究内容がわかるようにすること」（男子 30.1%、女子 38.0%）、「県内に理系の学校や就職先が多くあること」（男子 28.5%、女子 34.1%）等も高くなっている。

※ 理系の進路を希望している生徒：設問 7 (1) の“高校卒業後に希望する進路”において、「①進学（理工系学部、農学部）」・「②進学（医学部、歯学部、薬学部）」・「③進学（①・②以外の理系学部）」・「⑦就職（理系の知識・技能を多く使う分野）」のいずれかを選択した生徒

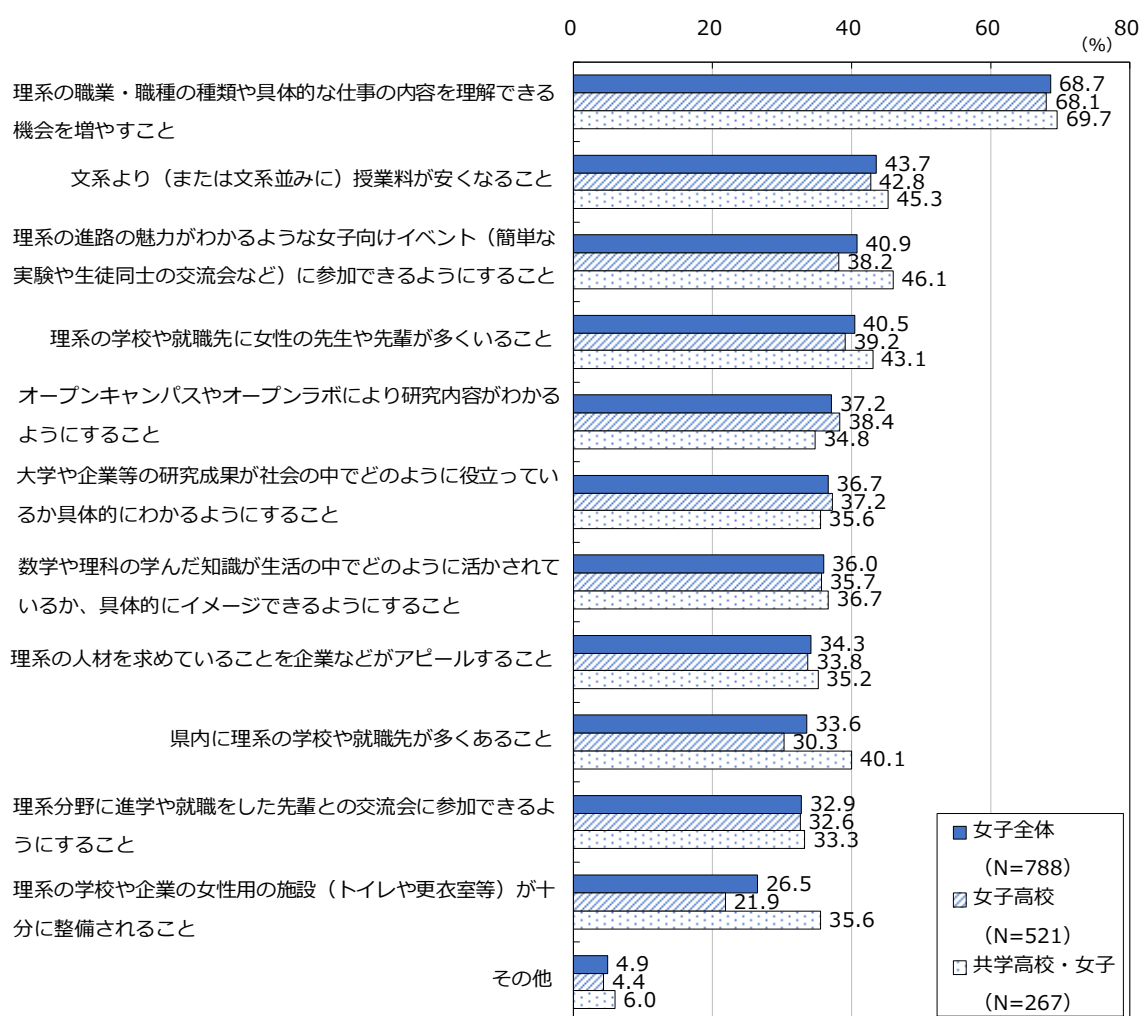
図表 12-2 理系の進路選択をする女子を増やすために効果があると思う取組
(理系・男女別)



図表 12-3 は、図表 12-1 の女子の回答を、女子高校・共学高校別に見たものである。

共学高校の方が女子高校よりも、「理系の進路の魅力がわかるような女子向けイベント（簡単な実験や生徒同士の交流会など）に参加できるようにすること」（女子高校 38.2%、共学高校 46.1%）、「県内に理系の学校や就職先が多くあること」（女子高校 30.3%、共学高校 40.1%）、「理系の学校や企業の女性用の施設（トイレや更衣室等）が十分に整備されること」（女子高校 21.9%、共学高校 35.6%）で特に割合が高くなっている。

図表 12-3 理系の進路選択をする女子を増やすために効果があると思う取組
（女子、女子高校・共学高校別）



なお、設問 12 については、選択肢として「その他」を設け自由記述を求めたところ、次の回答があった。

図表 12-4 理系の進路選択をする女子を増やすために効果があると思う取組

	記述内容	性別
1	男卑女尊が男女平等になっていると考えている者もいるので、どうにかしたほうがいい。	-
2	女子に対する差別がないということを根拠をもとに明示する（大学も企業も）。ライフイベントの際に女性が退職したくないのにさせられることが絶対にならないということを根拠をもとに明示して、女性が挑戦できることを大きくアピールする。	女
3	そもそも、性別を見ずに採る人を決める。男女比率を 1 : 1 にする。	女
4	理系＝男子という偏見をなくす。	女
5	理系は男子のほうが得意だという思い込みを捨てさせること。	女
6	女子だから数学、理科は不得意と決めつけない。好きな選択をさせる。入試での男女定員分けや点数操作などをしない。偏見をなくす。	女
7	身近な人からの偏見をなくすこと。（家族に「女子は数理が苦手」と言われる等）。県内に住んでいると、人と人同士の関わり合いが良くも悪くも多いので、よく知らない人にもステレオタイプを押しつけられることがある。	女
8	壁を無くしていくこと。私はないが、偏見をつけてはいけない。	男
9	就職において性差がないことを示す。	女
10	理系から進むことのできる職業を増やすこと。	男
11	ラフな雰囲気職場環境を充実させ、理系にありがちな「堅い」「知識」のようなイメージを和らげることができるインターンシップなどの機会を作る。	女
12	もっとパリの雰囲気にする。	女
13	生理時に休みをとれるようにするなどの女性特有の悩みの共通理解を深める。	女
14	歴史上における女性の科学者をピックアップする。でもそれって、マリー・キュリーくらいしかないのでは。	女
15	影響力の強いメディアを使って、女性が働く姿をよく映すこと。	男
16	理系の研究分野において女性が活躍している例を沢山作り、中高大生に興味関心意欲を持ってもらうこと。	男
17	文系に行く女子は数学が苦手な人が多いイメージがあるので、まず小中での数学の教育に力を入れればいいのかと思います。	女
18	文系を選んだ友達に、特にやりたいことがなく数学が苦手だからといって文系を選んだ子がいた。だから、理数系の教科が苦手にならないような、苦手でも希望を持てるような講座とか授業をすると良いと思う。	女

	記述内容	性別
19	女子は数学が苦手な人が多いと思うので、数学を克服できるようなことをする。	女
20	数学への苦手意識をなくすこと。	女
21	理系教科が好きになれるようなイベントを行う。	女
22	数学に対する苦手意識をなるべく持たせないような教育をした方がいい。	女
23	数学が苦手な人々の為に、高校数学を分かりやすく教えるサービスを充実させる。 (ネットなどで)	男
24	理系科目に苦手意識を持たせない授業作りを心掛ける。	女
25	英才教育。小さな頃から数に親しませる。数字への苦手意識を持たせないようにする。	女
26	興味を持てるようにすること。	女
27	義務教育の時点で理系科目の面白さを教えること。	男
28	文系科目を高難易度にする。または理系科目を易しくする。	男
29	理系文系というくくりを無くせばよいと思いました。	女
30	理系に女子が進学した場合、学費免除とし、文系に女子が進学する場合、学費を10倍にする。	男
31	各大学（県内、県外）にもっと理系の学部を作ったり、種類を増やしたりする。	女
32	県立の大学、看護や医学などをつくること。	女
33	幼児期に理系的思考が身につくような活動をする。空間認知を養うおもちゃなど。	女
34	「進路」にとらわれていては自分の適性や将来のことばかり考えて「学ぶ意義」を誤解していきそうなので「進路の魅力」がわかるイベントではなく、「学問の魅力」がわかるイベントがいいと思います。この学問はこう神秘的で、こう美しいということが分かり、「ああ、すごい！」「好き！」と学問を捉えられるようになることが、進路の話より優先だと思います。	女
35	勝手に理系に行けばいいと思う。	女
36	無理に増やそうとして選択の幅をせばめるべきではないと思う。	女
37	なぜ女性が理系の進路選択に戸惑いがあるのかがわからないので記入できません。	男
38	「女子を増やす」という考え方が違うと思う。なりたい人がなればいい。	女
39	特にない。そもそもなぜ理系の進路を選択する女子を増やしたいのかがわからない。	女
40	理系の進路を選択する女子を増やす必要がないと思うから。	女
41	男性と女性間の給料の格差を減らせばいいと思う。後は特段何もなくてよいと思う。意図的に理系選択の女性を増やそうとするのは良いイメージを持ってないから。	男

	記述内容	性別
42	私は男子女子関係ないと思うので、女子を優遇することはしない。むしろこれこそ男女差別ではないだろうか。	男
43	女子を増やすということに意味はあるのですか。差別的に感じます。学生や子供が文系にも理系にもふれる機会を設けるべきです。	女
44	そもそも無理に女子を増やす必要はないと思う。理系分野に進みたいという意欲がある人が男女関係なくその進路に進めば良いと思う。	女